THE ADVENTURES OF SHERLOCK HOLMES II

シャーロック・ホームズの冒険2

～まだらの紐～

原作●コナン・ドイル

作画/JET



THE ADVENTURES OF SHERLOCK HOLMES II

Sir Arthur Conan Doyle

JET

シャーロック・ホームズの冒険 2

THE ADVENTURES OF SHERLOCK HOLMES II

～まだらの紐～



原作◆コナン・ドイル　作画／JET

CONTENTS

まだらの紐
The Speckled Band
5

黄色い顔
The Yellow Face
59

入院患者
The Resident Patient
102

瀕死の探偵
The Dying Detective
144

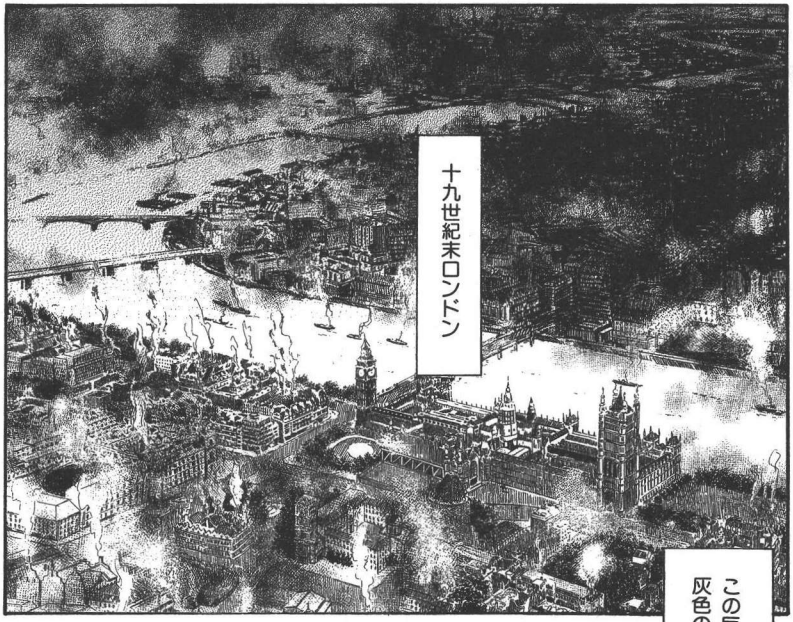

まだらの紐
The Speckled Band


The Adventure of Sherlock Holmes
シャーロック・ホームズの冒険


姉と私は
奇妙なくらい
似ていた
姉は闊達で
しっかり者で
私は
引っ込み思案で
姉の後ばかり
ついてまわる子供
だったけれど
不思議なことに
他人の目から見れば
ふたりは
そっくりに見える
らしいのだ
母を亡くして
ふたりっきりで
あの
荒野の真っただ中の
荒れ果てた屋敷に
引き取られた時も
ふたりでいたから
耐えられたのだと
思う


だからあの日
恐ろしいあの夜
姉が
恐ろしい死に方をした
あの夜に
私は
自分の半分を
失ってしまった
何よりも
恐ろしかったのは


姉を見下ろしたその目が
笑っているように
見えたこと
それが
私たちの
義父だったと
いうことだ——



この巨大な
灰色の都市で

我が友
シャーロック・ホームズが
解決した
数々の事件のうち

これから語る
ストーク・モーランの旧家
ロイロット一家の事件ほど
奇怪なものは
他に思い当たらない

それは
あまりに異様で
悲劇的な事件で
あつた——


十八八三年のある朝――
221b
……
？
やあ
ワトスン君
起こして
すまないね
まだ
七時十五分だが
今朝は
そういう運命
らしいよ
まずは
ハドスンさんが
たたき起こされ
彼女が腹いせに
僕を起こす
そして僕が
君を起こす
という次第だ


……？
火事かい？
いや
依頼人だ
パチ
パチ…
じきに
暖かくなります
からね
ありがとう
ハドスンさん
ずい分
震えてらっしゃる
ようだ
熱いお茶を――
震えているのは
寒さのためでは
ありませんわ


恐ろしいからです
ホームズ様
どうか
この恐怖から
私を救って
下さいませ
彼女は
三十歳前後という
ところだろうか
張りつめたような
恐怖と脅え
多量の白髪もまた
彼女の顔から
若々しさを奪っていた
ええっと
ミス――？
ヘレン・ストーナーと
申します
ホームズ様のことは
ファリントッシュ夫人から
お伺いしました
ファリントッシュ
夫人――
ああ これか
蛋白石の頭飾り
の事件だ


例え紹介などなくとも
貴女のような若い御婦人が早朝から汽車でしかもこの寒いのに二輪馬車で駆けつけていらしたのだ
出来る限りの尽力はいたしましょう
え
あの
どうしてそんな事が
不思議なことではありませんよ
貴女の手袋の折り返しに往復切符の帰りの分が入っている——それに
上着の左腕に真新しい泥のはねが七つはついています
そんな場所にはねが上がるのは二輪馬車
それも御者の左側に座った時だけです
まあ……


あの……
私今は
自由になるお金を
持っておりません
でも
あと一か月もすれば
結婚して
遺産が入ることに
なっておりますの
ですから——
僕には
事件そのものが
報酬なのです
必要経費を
払って下さると
いうのでしたら
それは
いつでも結構
どうか詳しいことを
お聞かせ下さい
ワトスン君は
僕の親友であり
協力者です
どうか
お気になさらず
——


ですが今は
一族の栄光も
影もなく
所領といっても
二、三エーカーの土地と
二百年前の屋敷を
残すのみですわ


私は今
確かに
義理の父と一緒に
サリー州の
ストーク・モーランに
住んでおります
ロイロット一族と
言えば
イングランドでも
最も古い血筋のひとつ
だそうですわ……


義父は若い頃
このままではいけないと
医学の学位をとり
インドのカルカッタで
盛大に開業していた
のだそうです
ところが――
――!
家の中で次々と
物が紛失することに
腹を立て
かっとなったはずみで
現地でやとった
召使い頭を
殴り殺してしまい――


幸い死刑は
免れたものの
英国へ送還され
将来に
何の望みもない
人間になって
しまったようです
母は――
インドで
義父と出会って
再婚したのですが
当時私と双子の姉は
二歳になったばかり
心労がたたったのか
じきに亡くなったと
聞いています
そして――
母が元夫から
引き継いだ
年間千ポンド近い
遺産をすっかり
義父に遺したので
私共の今の生活は
そのお金で
成り立っているような
ものですわ
先ほど
遺産が入ると
おっしゃったのは
……
ええ
私も――
亡くなった姉も
結婚して家を
出た場合は
三分の一ずつを
受け取ることが
出来る取り決めに
なっていたのです
なるほど


……
お姉さんが
亡くなったと
おっしゃいましたね
ええ
…あれは
ちょうど二年前
姉の結婚式を
二週間後に控えた
夜のことでしたわ
ひどい嵐の
夜でした――
ゴゴゴゴ
ヘレン
ごめんなさいね


すぐに私も出てゆくわ
あなたの婚約者に素敵な男性を紹介してもらう約束になってるのよ
もっともっと格好良い人をね
あなたひとりこの屋敷に置いてゆくなんて
やがて姉が自分の寝室へ下がる時
妙なことを言ったのです
ヘレンあなた……
真夜中に誰かが口笛を吹くのを知っていて？
いいえ？
この数日毎晩夜中の三時頃にはっきりと口笛が聞こえるのよ
まあ
あの嫌なジプシーの連中かしら


父はなぜか
あの流浪の……
ジプシーたちを
所有地内に
居座らせて
いるのです
英国に戻って
近所の方たちと
次々に揉め事を
起こしたものですから
友人といえば
彼ら(ジプシー)だけ
なのですわ
その上
インドから
取り寄せた
豹や猩々を
放し飼いにして
いるのです
――口笛ですか
でも私には
聞こえません
でしたわ
私は
ぐっすり眠る
性質だから……
そう言えば最近
隣室の義父の
葉巻の匂いが
気になって
眠りが浅いのかも
あの人にも
困ったものね！


お休みなさい
お休み
ヘレン……
ひどい嵐の
夜でした
姉に聞いた話の
せいもあって
風や雨の音が
耳について
眠れぬまま——
ゴオオオオ


ジューリア！
どうしたのジューリア!?
ギ…
ギィ
あの恐ろしい叫び声が
――――!!


ジューリア!?
しっかりしてっ
ジューリアッ
しっかり!!
すでにその顔は
死人のようでした
……


……まだら……の紐
……ひも
が
そのまま——
義父が
手当てをしましたが
もう——
まだらの紐？
何の事だか
まったく——
幻覚を
見ていたのかも
しれません
……その時の
お姉さんの様子
は——
服を着て
おられましたか


いえ
寝巻のままでした
右手にマッチの燃えさしを握りしめ……
ベッドのそばにマッチ箱が落ちておりました
では
変事のあった時マッチを擦ってまわりをごらんになった訳ですね
なるほど
興味深い
検屍尋問は行なわれたのでしょう?
ええ
義父——ロイロット博士の行状はすっかり悪い評判になっておりましたので
特に念入りな調査が行われたのですが結局何も——
それで?
二年経った今僕の元を訪ねられた理由は?


……
一か月ほど前
私はある方から
結婚のお申し込みを
受けました
義父も特に
反対は
しませんでしたし
誠実な方で
彼が大陸から
戻り次第
式を挙げることに
なっております
そんな折
突然
屋敷の改修が
始まり
私は
姉の死んだ部屋で
数日を過ごさねば
ならなくなって
しまったのです
――それで？
昨夜のことです


私は
姉の言った
〝夜中の口笛〟を
聞いてしまった
のです
部屋には特に
変わった所は
ありませんでした
けれど
これは私自身の
〝死の前触れ〟
なのではないか——
もう恐ろしくて
恐ろしくて
一睡もできず
夜明けを待って
屋敷を抜け出し
村の旅館で
二輪馬車を
やとって
こちらへ
駆けつけて
来たのです


賢明な判断でした
私は……
どうしたら…
失礼
あなたのお義父上はよほど力の強い方と見えますね
では
午後一番の汽車でお屋敷に向かいます
え
ええ
あの人はそれを自覚していないようですの


現場を見れば的確な助言が可能です
本当にありがとうございます
幸い義父は今日戻りが遅くなると申しておりました
村の宿屋までお迎えにあがりますわ
では――
なかなか変わった事件のようだね
そうだな
何やらどす黒い意識を感じる――


ちょっと
あなた
何を――
バタッ
どちらが
ホームズだ!?
隠すと
ためにならんぞ!
わしは
ストーク・モーランの
グリムズビー・
ロイロット博士だ
おお
お初にお目に
かかりますな
ホームズは
僕ですが
わしの娘が
ここに来たのは
わかっとる!!
何を
しゃべった!?
ドーン
まだまだ
寒い日が
続きますな

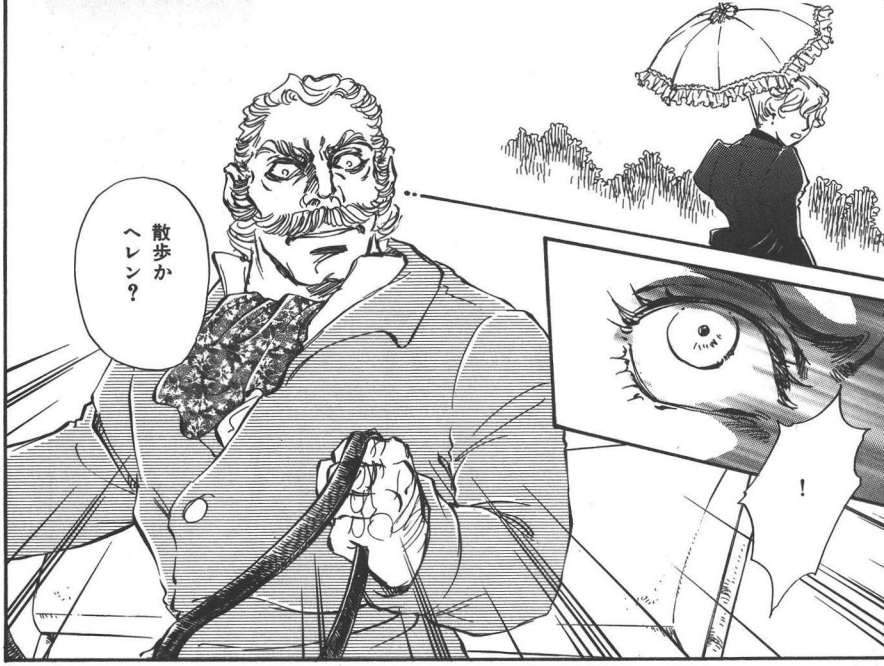

答えんか！
ですが
クロッカスの花の出来は良いようです
……
ウワサは聞いているぞ
このならず者め
出しゃばり屋のホームズめ!!
おせっかい屋!!
警視庁（スコットランド・ヤード）の下っぱのホームズ!!
ガ


ゲ…
ゲゲ…
…こりゃあ
ボダッ
わしを敵にまわすのがどれだけ恐ろしいことか
わしに近寄ってつかまれたりせんことだ！
ナデッ
とんでもない男がいたもんだ……
！
ゲゲ…ッ


残念だ
もう少し長居をしてくれれば
僕の腕力も見せられたんだがな
ホームズ！
依頼人の身が心配だ
うむ
ピストルを持っていった方がいいかな？
……
この事件に君を巻き込むことを少々ためらっているのだがね
僕は役に立たないのかい？
とんでもない！
君がいればどれほど助かることだろう
ならばぜひ行くよ
では
一時間後にウォータルー駅で！


夫人の遺言書を調べてみた
ゴトン
ゴトン
ヘレン嬢の言った通りだが
現在は目減りして年750ポンドまで減っている
おまけに屋敷と土地は何重にも抵当に入っていて
現在年に250ポンドもの減収は致命的だ
こちらもインド時代の友人に聞いたんだがね
ロイロット博士の素行は当時かなり有名だったのだそうだ
思い通りにゆかぬと歯止めのきかない人物で
召使い頭の他にも大怪我を負わせた相手もいる


動機も充分
その凶暴さに
医学の知識が
加わると——
姉の死にも
博士が関わって
いると？
否定する根拠は
何もない——が
今はまだ
推論にすぎないよ
ガラ
ガラ


！
散歩か
ヘレン？


お
お義父さま
お出かけだった
のでは…
取りやめた
早く屋敷へ
帰りなさい
さあ
さあ——


戻るんだ――
彼女の身に何かあったに違いない！
屋敷へ急ごうホームズ！
――いや
ダメだ
犯罪の確証もないのにどうやって踏みこめるというんだね
…そんなっ
早く着きすぎたかな？
…いや……
それはヘレンさんの……っ
！


何の真似だ？
あのならず者に
何を告げ口しに
行ったんだ？
な
何の話か
わかりませんわ
お義父さま……
！
しらばっくれても
無駄だ

素直になるまで
この部屋からは
出さん！
ガタッ
ガタガタ
…あ
ああ…
あのならず者の
ホームズが
わしの領地内へ
一歩でも
入ってみろ
この手で
ズタズタして
引き裂いてくれる
ジューリア
……
…助けて
…


これは
これは
旦那
変わった事は
ないか
へぇ
別に…
何か
あったんで？
いや
何もなければ
それで良い…
待ちやがれ
ザッ！


このガキッ
ガッ
証拠は
何事だ
そ そいつが
うちから
蹄鉄を
盗んだんで……
そいつが
持って……


この子供は
わしの客人だ
だが
貴様は
無断侵入だ
ち
ちくしょう
何しやがる……
まだ言うかっ
こうして
くれるっ
ビシッ


…ふう
騒ぎのおかげで
庭までは
入りこめたが…
！
にゅっ！
ほら
ご苦労
ドラ
…あきれたな
計算ずく
だったのかい
まだ
油断はできない
豹を飼ってる
とか言う話だ
……

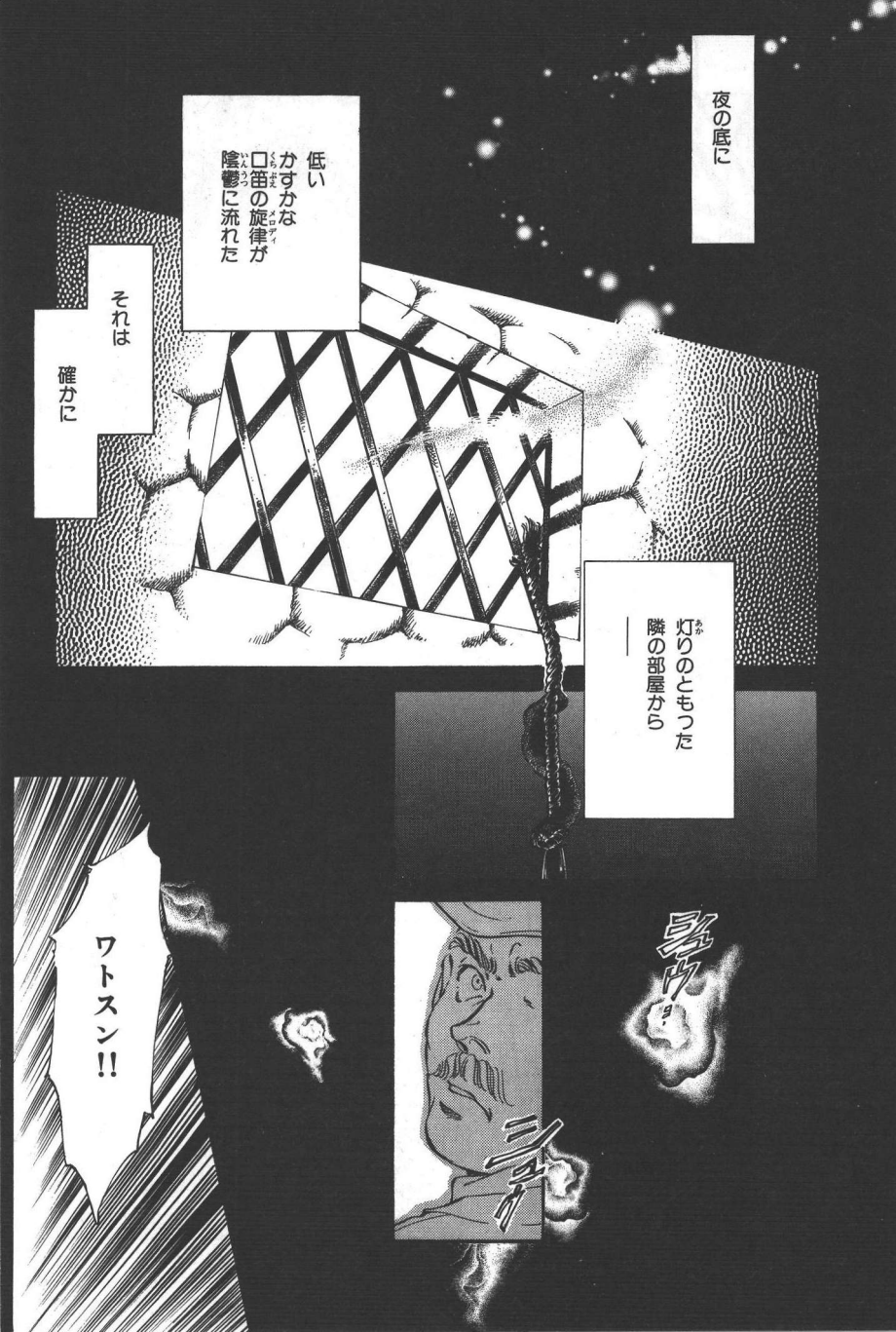

ヘレンさん！
！
イイ
気の毒に
よほど怖い目に
あったんだな
気絶してる
――いや
このままの方が
いいかもしれない


気になることでもあるのかい？
おかしな所だらけだよこの部屋は
見たまえ
ベッドが床に固定されている
へっ？
おいっ
それにこのベッド脇の呼び鈴の紐——
？
鳴るわけがない
それに第一なぜ換気口が隣の部屋との間にある？
本当だ…
換気口の横にくくりつけられているだけなんだから
予想はしていたが
姉が博士の葉巻の匂いに閉口していたとヘレンさんが言っていた隣は博士の居室ということだ


ワトスン
今夜は絶対
眠ってはいけないよ
命に関わる
ことになる——
ガタ
ガタ


どれほどの時間が
経ったのだろう
ポケットの中の
懐中時計の音と
自分の心臓の音
それだけが
無闇に大きく
耳を打つ——


その時
ニッ
ほう…っ
パタン…
ナ!!
ナ


夜の底に
低い
かすかな
口笛の旋律が
陰鬱に流れた
それは
確かに
灯りのともった
隣の部屋から
――
ワトスン!!


〝まだらの紐〟だっ!!
!?
…紐…!?
ワトスン!?
見たか


ギャあ
あ
今の声は!?
ロイロット博士か!?
——死神の矢は
放った者の元へ返ったらしいな
ギ!
ギィ


これが
〝まだらの紐〟の
正体さ
インドに生息する
猛毒の沼蛇だよ
噛まれた者は
ほぼ即死する


……？
結局――
事件は
当局によって
〝危険な愛玩動物
による事故〟で
片づけられることと
なったが
その後
ロイロット博士の
死に関して
真実以上の
恐ろしいウワサが
流布されたのは
周知の方も
多いと思う


ヘレン嬢はやっと
あの恐ろしい屋敷から
逃れ
婚約者と
めでたく結婚
このほど彼女が
夫と共に
大陸へと移住する
こととなり
もう頃合(ころあい)かと
この事件について
発表する次第
である――
君は
最初から
予想して
いたのかい？
しかし
凶器が
毒蛇なんて……
可能性のひとつには
考えていた
221b


危険が
窓側から
来るのでない以上
隣室――
博士の部屋から
だろうと
博士がインドの動物を
輸入していると聞いて
さらに確信は深まった
……
どのように
調教したものか
今となっては
確かめようもないが
あの
〝夜中の口笛〟は
蛇への合図
だったのだろう
蛇は換気口から
呼び鈴の紐を
つたわって
被害者の眠る
ベッドへと
降りてゆく
もちろん
必ず襲撃するとは
限らないので
何度か試みて
――姉が口笛を聞いた

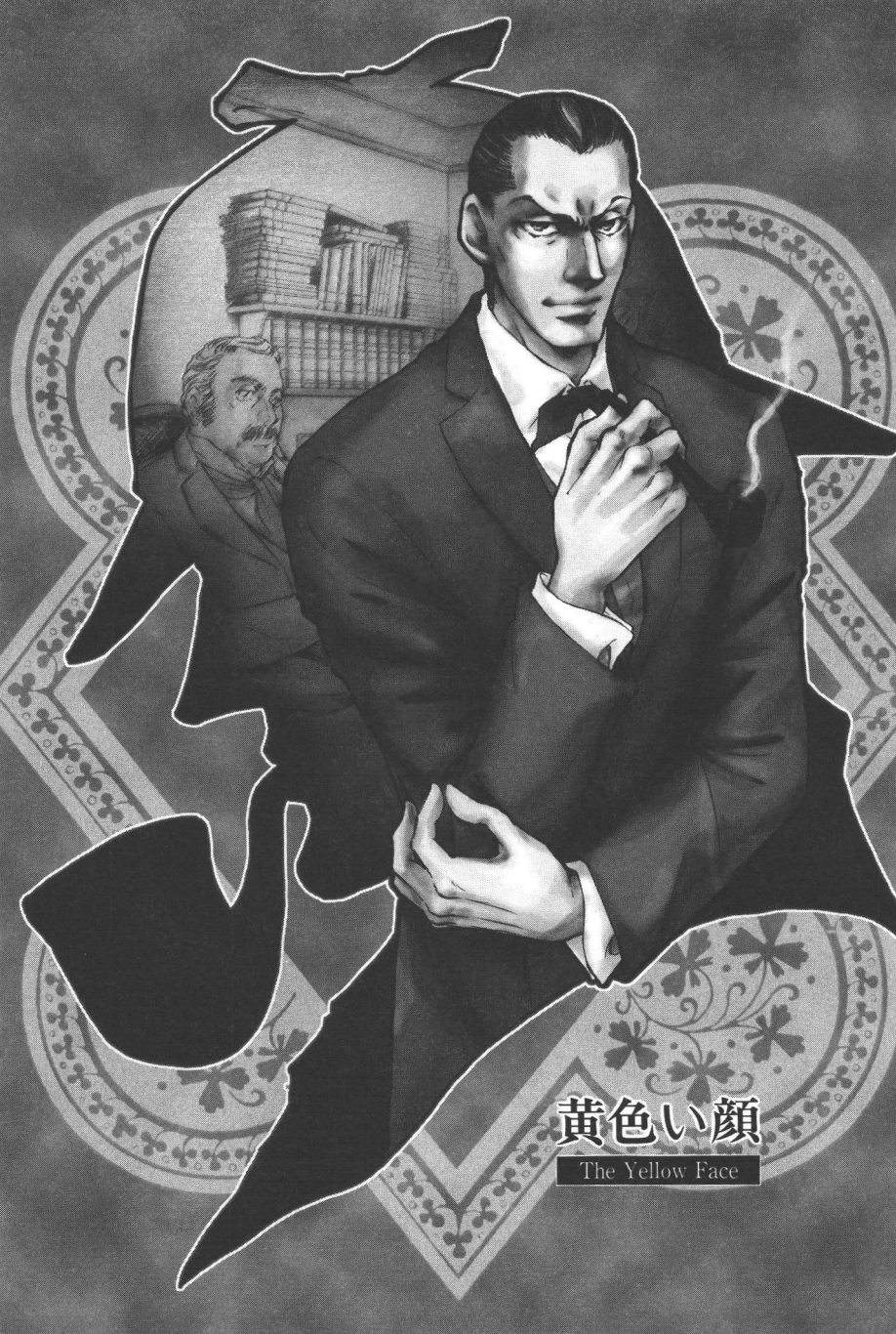

傷口は
非常に小さいし
現代の科学では
毒の検出も
不可能だろう
被害者は
突然死と判断され
完全犯罪成立
——というわけだ
その凶器が
自分の命を
断つことになるとは
博士も思えば
哀れな男だな
コト…
ロイロット博士の
死に関しては
僕にも
多少の間接責任は
あるのかもしれないが


我友人は
そうつぶやいて
苦い笑みを
霧にかすむ街へと
振り向けた
幸いなことに
さして
良心の呵責は
感じないな——
冬も近い——

まだらの紐◆END

まだらの紐 The Speckled Band

初出:『ネムキ』2004年11月号掲載


黄色い顔
The Yellow Face


The Adventure of Sherlock Holmes
シャーロック・ホームズの冒険


その年は
春の訪れが遅く
やっと木々も
芽吹き始めた
そんな午後
めずらしく
ホームズと私は
長い散歩を
楽しんでいた
といって
何か目的が
あるわけでもなく
ただ
ハイドパークの
あちこちを
歩き回って
いたのだが


たまには
こうして
散歩も
良いものだと
思わないかね
良い運動になる
良い運動？
そうだよ
気持ちいい
季節じゃ
ないかね！
運動のための
運動など
精力の浪費
だよ
あり得ないね！
…
…
その割には
君は拳闘なども
得意なようだが
時に捜査において
必要な場合が
あるのでね
どうやら


我が友人は
このところ
たいした事件がなく
退屈しているようだった
221b
あら
ホームズさん！
さっきまで
お客さんが
待ってらしたんですよ？
少し散歩が
長過ぎたかね
依頼人かな？


いや
どうやら客人は戻ってきそうだ
それは？
客人の忘れ物だよ見たまえ
パイプも良い品だが
吸い口を銀で何度も補修して使い込んである
よほど気に入り大事に使っているのだろう
もったいなくてという事かい？
いや――
これは1OZ8ペンスのグロウヴナ混合煙草だよ


この半分の値段でかなりのが吸える
金に苦労はしていない男だ
そして左きき
精力的で
見事な歯並びをしている
——あ！
どうやら持ち主が戻って来たようだよ
——が
懐中時計と靴紐を除けばパイプほど持ち主の個性を現すものはない
吸い口をかみ切った跡だよほど精力的な男だよ
ふぬふぬ
んんんとだね


パイプの持ち主
グランド・マンロー氏は
(例によってホームズが
帽子の中布に書かれた
彼の名前を
言い当てた時の
その表情は
見物であった)
ひどく
憔悴しきった
壮年の人物で
なかなか用件を
切り出そうとは
しなかった
――マンローさん
私とワトスン君は
この部屋で数々の
奇妙な秘密を伺い
幸いにも
多くの悩める方々に
平和をもたらして
きました
どうか事実のみを
お聞かせ下さい
時間は貴重
ですからな


私は妻を愛しておりますし
エフィ――妻も私を心から愛しております
私は結婚しておりまして
もう三年になります
そのことに間違いはありません
いや本当に
それで？
ですが先週の月曜日
突然二人の間に大きな秘密が障壁ができてしまったのです――
エフィについて話しておかねばなりますまい

出会った頃の彼女は
二十五歳という若さで
未亡人でした

若い頃アメリカに渡り
向こうで結婚したそうで

夫は凄腕の弁護士
だったらしいのですが
悪性の黄熱病で
子供とともに
亡くなったのだそうです

そして
傷心の彼女は
英国へ戻って
私と出会い

私たちは
熱烈な恋をして
再婚したのです

私は
ホップ商を生業と
しておりますが
年に700～800£の
収入があるので
楽に暮せます

またエフィも
亡夫がかなりの遺産を
残していたのですが

彼女は私と結婚の折
これをすべて私に
譲ってしまいました

私は要らないと
言ったのですが――


ところが
先日のことです
ねえジャック
あなた
私のお金は
いつでも好きにして
良いと言って
下さったわね？
もちろんさ
あれは
お前のお金
なんだから
一切手は
つけていないよ
じゃあ
100£欲しいのよ
100£!?
一体何に
使うのかね？


あらっ
あなたは
私の銀行と思えと
おっしゃったじゃない
銀行は
使い道なんか
聞かないものよ
…そりゃまあ…
僕に言えない
ことなのかい？
……
…いつか
時が来たら
必ずお話します
でも今は
何も聞かない
で……
100£といえば
大金です
新しいドレスとかの
金額では
ありません
このことは
今度のことと
直接関係ないかも
しれませんが…


それは
こちらで判断
します
続きをどうぞ
先週の
月曜日の夕方の
ことです
私は現在ノーベリに
年80£で
小綺麗な別荘を借り
住んでおります
ロンドン市街への
交通の便も良い
その割に田舎びて
実に美しく
楽しい住まい
なのですが


近くには
同じような別荘が
数軒点在しており
我が家の近くにある
小さな建物は
仲々良い風情で
もう半年以上も
空き家なのは
もったいないことだと
思っていたのです


それがその日
おや？
誰か借り手がついたらしい
良い人ならばいいがとそんな事を考えながら
建物に近づいた時——
おや
誰か——


——それを
どう説明したら
良いのか——
それは
何か非常に
不自然で
とにかくその
顔色ときたら
——


血の気の失せた
黄色
とても
生きた人間の
顔の色とは
思われません——
——顔は
すぐに引っ込んで
しまい
私は
今見たものを
必死で理解
しようとしました


しかし――
ピンポーン
ギッ…
…何か
ご用でしょうか
…いや
私は
すぐそこに
住んでいる者
ですが
それは
どうも――
では
ごあいさつをと
思いまして――
引っ越して
いらした――？
ドタン


その夜のことです
夜中にふと
目が覚めました
生来私は
まったく良く眠る方
なのですが
どうやら
昼間の経験で
神経が過敏に
なっていたようです
フッ
――妻でした


ですが――おお―
その顔色と
きたら!!
ギィ
無論――
しばらくすると
玄関の蝶番が
きしる音が聞こえ
妻が屋外へと
出ていったことが
わかりました
――こんな時間に?
そんな事態は
初めてでした
夫婦の間に
秘密があるなど
その夜まで私は
想像したことも
なかった

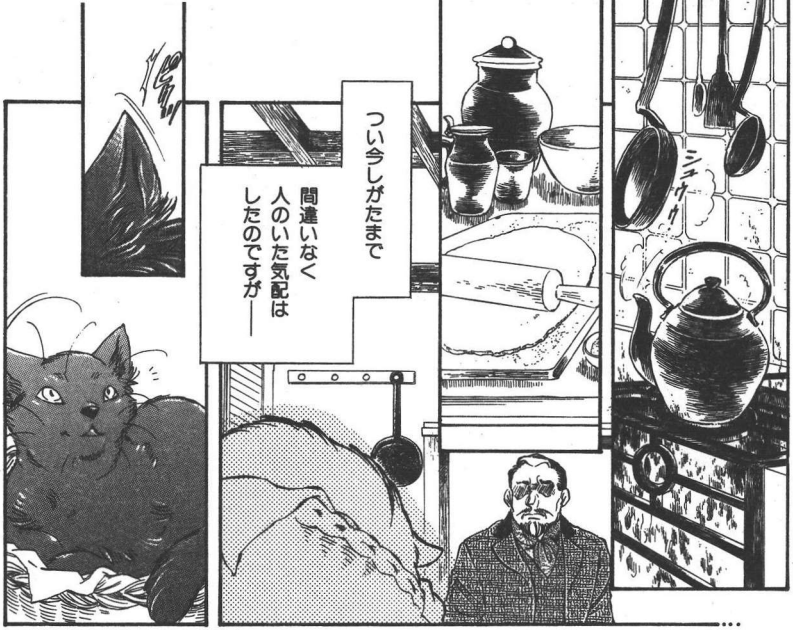

妻はどこへ行ったのか
それも私に内緒で
——彼女は帰って
来てくれるのか——
そんなことが
頭の中を渦まいて
キィ
小一時間も経った
頃でしょうか——
どこへ
行ってたんだい
エフィ?
彼女の表情が
すべてを物語って
おりました
あ
あら
貴方
目がさめるなんて
珍しいことも
あるものね!


私
何故か今夜は
ちっとも寝つけなくて
外の新鮮な空気を
吸ってきたところよ
その怯えた瞳が
彼女は嘘を
ついていると——
——そうかい
——長い夜が明けて
私は朝早くから
長い散歩に出ました
何とか私なりに
昨夜の出来事を
考え直してみよう
と思い——
明るい朝の日射しに
昨夜のことは
悪い夢だった
のではないか
そんな事も
考え始めた
頃——


昨日の別荘から
妻が出て来た
のです!
あきらかに
辺りを気にする
様子で——
そうか——!
昨夜も彼女は
ここへ
来ていたんだ!!
妻を
問い詰める
べきか否か
私には決心が
つきませんでした
お笑い下さい
私は妻を
永遠に失って
しまうのではないかと
そのことを
恐れたのです


その三日後
決定的なことが
起きました
——ですが——
その日私は
シティでの取引が
早く片づいたので
予定より
一本早い汽車で
帰って参りました
そして
我が家に
戻ると——
旦那様!?
もうお帰りに
なられたのですか!?
——エフィは
どこにいる?
さ
散歩かと
存じますが…
あっ
旦那様っ
いけませんっっ
私は一心不乱に
駆け出しました


あの別荘だ
あそこには
私の生活に
影を投げる
秘密がある
もう
耐えられぬ
——!!
私は
叫ぶ妻を
振り切って
別荘の中に
飛び込みました
あっ
あなた!?
お願い
後生ですから
やめて下さいっ
お願いっ
やめてっ
ハハハハア
屋敷の中は
しいんと
静まり返って
おりました


ついさっきまで
間違いなく
人のいた気配は
したのですが――
シュウ
……


ウウッ…!
一階にも
人の気配は
ありませんでした
ですが――


そこにあったのは
三か月ほど前に
私が妻に薦めて
撮らせた
妻の写真でした
それは
私も妻も気に入りで
彼女の化粧台に
大事に飾られて
いたはずの
ものだったのです
そして
その部屋には
他にも
彼女が
大事にしていた
キルト刺繍や
お気に入りの絵が
いつの間にか——


エフィ
…ジャック……
お願いだ
何もかも
話してくれ
それは
できません
――でも
お願いです
私を信じて
下さい!!
何故(なぜ)だ!?
僕に何を
隠している!?


こんな状態で
信頼など
あり得るか!!
そのまま
私は家を出て
昨夜はロンドンに
一泊いたしました
——そして
今朝になって
貴方の名声を
思い出し
ぜひとも
御助言を頂きたく
こうして参上した
しだいです


…ホームズさん
私は
どうしたら
良いので
しょうか…


…マンローさん
奥さんが100£ほしいと言われたのはいつ頃のことです
そうだその通りですよ！
奥さんの前の御主人の写真を御覧になったことはありますか？
いえ
あなたが窓側で〝黄色い顔〟を見た部屋ではありませんか
そうです！
!!
二か月ほど前のことです
その——
奥さんの写真があった部屋というのは
亡くなった直後アトランタに大火がありまして持ち出せなかったそうです
アメリカから奥さんに手紙が来たことは？
私の知る限りありません
〝黄色い顔〟の印象をもう一度どうぞ？


とにかく
色が不自然で
顔立ちに
おかしな硬ばりが
あるように
感じました
実に
嫌な印象を
受けたとしか――
――わかりました
マンローさん
あの……
私は
どうしたら
まずは先に
お帰りになって
ください
我々は明朝
参ります
そして
件の別荘に
まだ人がいるか
そっと確認なさって
もし
人がいるようなら
決して踏み込んでは
なりません
我々の到着を
お待ちください
人が
いなかったら?
その場合の手も
考えてあります


どうか
御安心を
不気味な話だね
君にはもう
見当がついて
いるのかい？
いくつかの
推論はある
最も可能性が
高いのは——
——恐喝だ

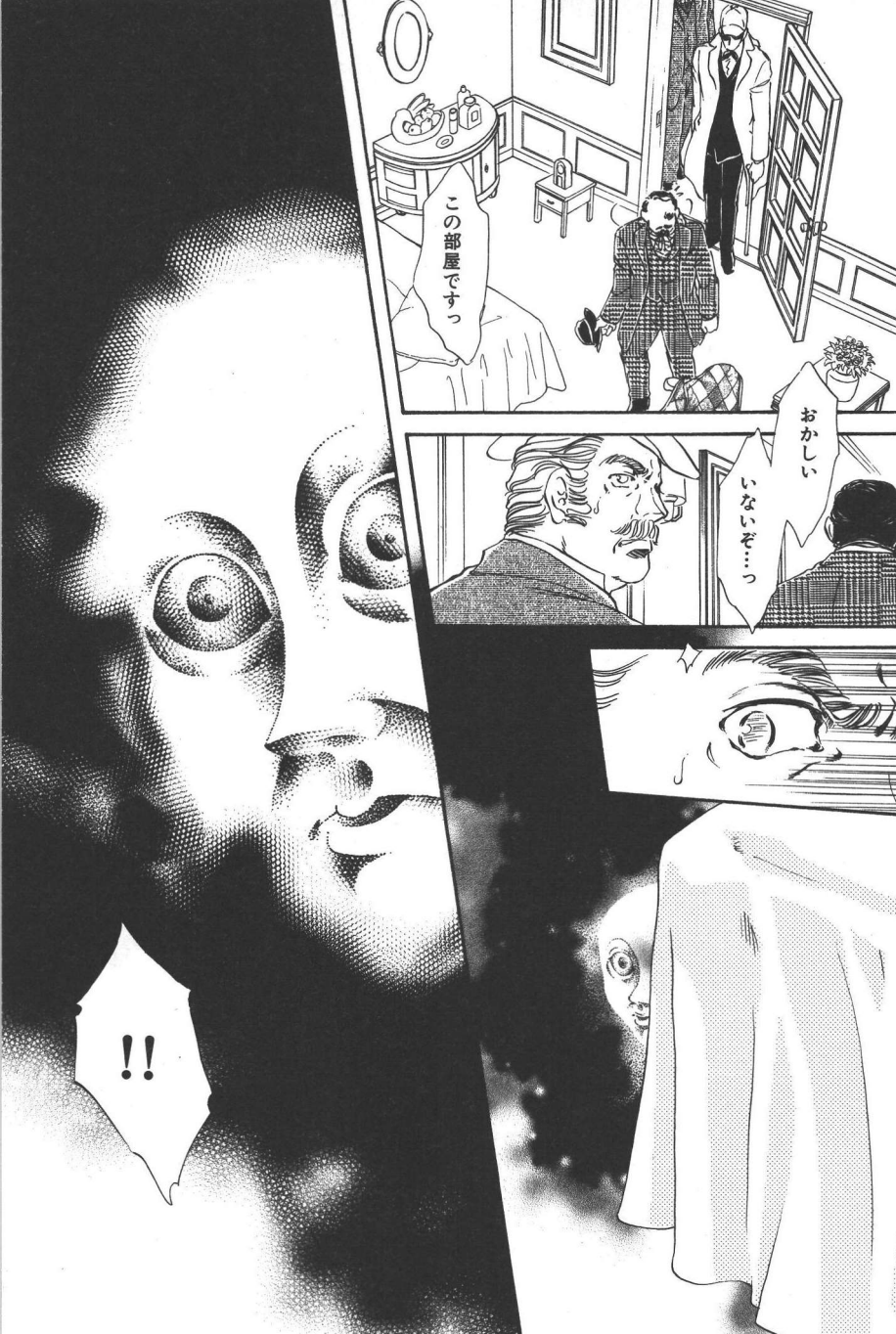

恐喝だって!?
誰が――
依頼人の家のすぐ近くに住みつき
別荘の居心地の良い部屋を占領して
これ見よがしに妻の写真を飾っておく奴さ
夫人はそいつの言いなりになって100£で別荘を借りさらにその元に通いつめている
――まちがいない
その別荘にいるのは妻の前夫だよ
ガタン ゴトン

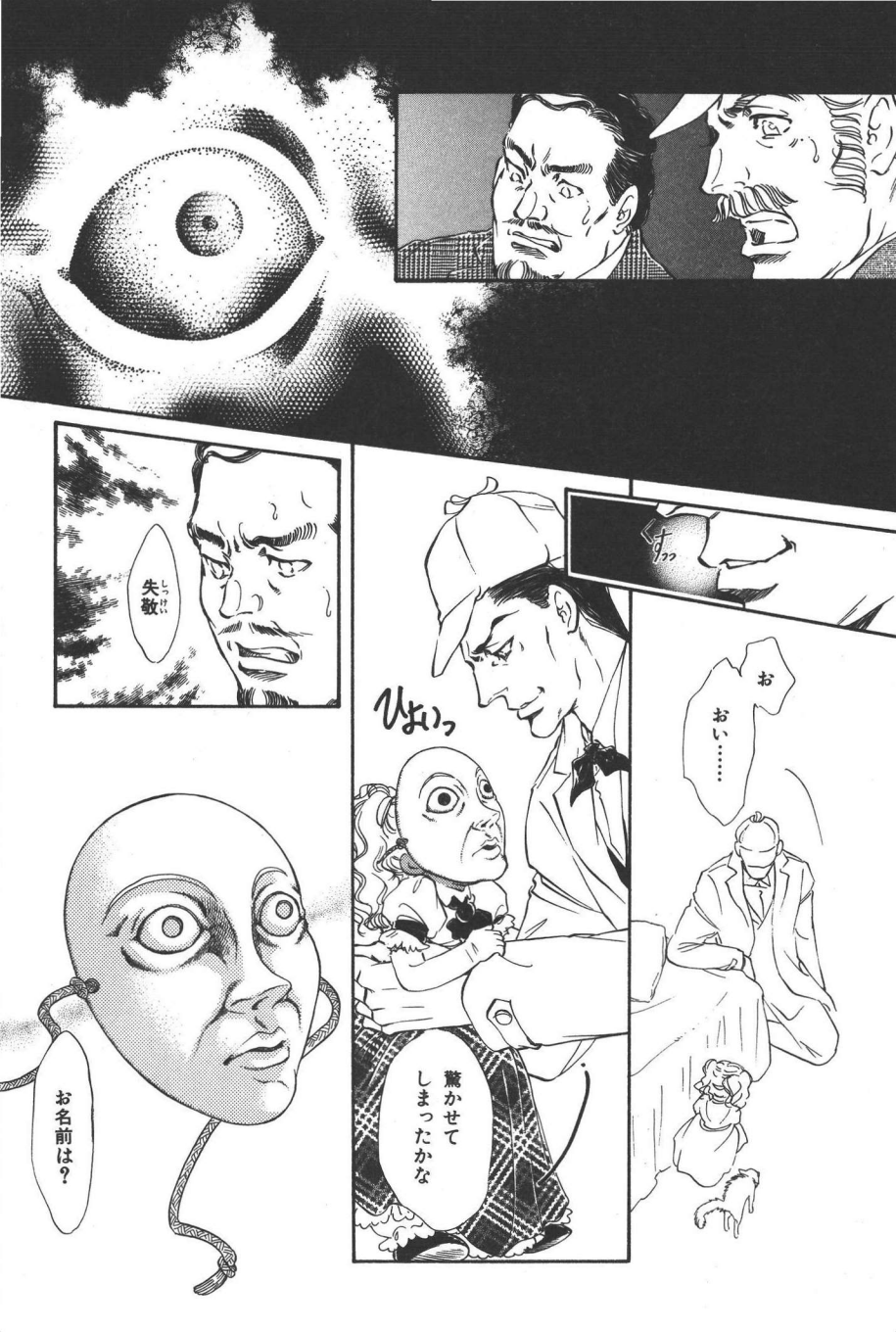


※ホームズの時代は別の名称で呼ばれていた。


他にも新大陸には未だ未解決の熱病なども多いと聞くからね
病によって皮膚の変色や顔面筋肉の異常をきたしたか――
いずれにせよ病に倒れた夫を女は捨てたのだ
復讐のためか金のためか――それとも両方の目的のためなのか
幸せに暮らす彼女の前に夫が現れたわけだ
そうでなければ彼女が別荘の住人を二度目の夫に対して必死で隠す説明がつかないよ
ふうむ
いずれにせよもうすぐノーベリだ
真相は目の前だよワトスン君


私は
あの屋敷に
いるのが何者か
この目で
確かめたいのです
御二人には
証人になって
いただきたい
良いでしょう
どんな真実で
あろうとも
疑惑を放置
するよりは
ましでしょう
何を
されるんですっ
ええい
どけっ
ドンッ


この部屋ですっ
おかしい
いないぞ…っ
!!


お
おい……
ひょいっ
驚かせて
しまったかな
お名前は？
失敬


ルーシよ
これは一体
どういうわけだ
……
すべて
申し上げ
ますわ
エフィ!?
…もう隠(かく)しては
おけません
私の夫は
申し上げた通り
アトランタで
亡くなりましたが
生まれたばかりの
子供は生き残って
おりました
君の子か!


これは前の夫
ジョン・ヒーブロン
です
たいそう立派な人で
私は心から
尊敬しておりました
私はこの人と
結婚するため
白人社会との縁を
切りましたが
後悔したことは
ありません
ですが
夫が熱病で
亡くなった後
すっかりアメリカに
嫌気がさして
イギリスに戻ろうと
決意した際――
私は
ためらいました
英国では
肌の色への偏見は
新大陸以上ですし
娘はまた
熱病の予後が悪く
長い船旅には耐えられぬと
医者に告げられたので
結局――
娘は
忠実な乳母に
預けて
私のみが英国へ
戻ったのです


そして
ジャック
不思議な縁で
あなたと出会い
あなたを愛する
ようになって
——私は
子供のことを
話す勇気を失って
しまったのです
あなたを
失いたくない
けれども
我が子は愛おしい
——悩むうち
乳母からの便りで
この子が
健康を回復したと知り
もう どうしても
我が子に会いたくて
100£を乳母に送り
こっそりと娘を
呼び寄せたのです
ほんの少し
少しだけ……
また別れて
暮らさねば
ならないのか
いえもし
あなたに
知られて
しまったら……

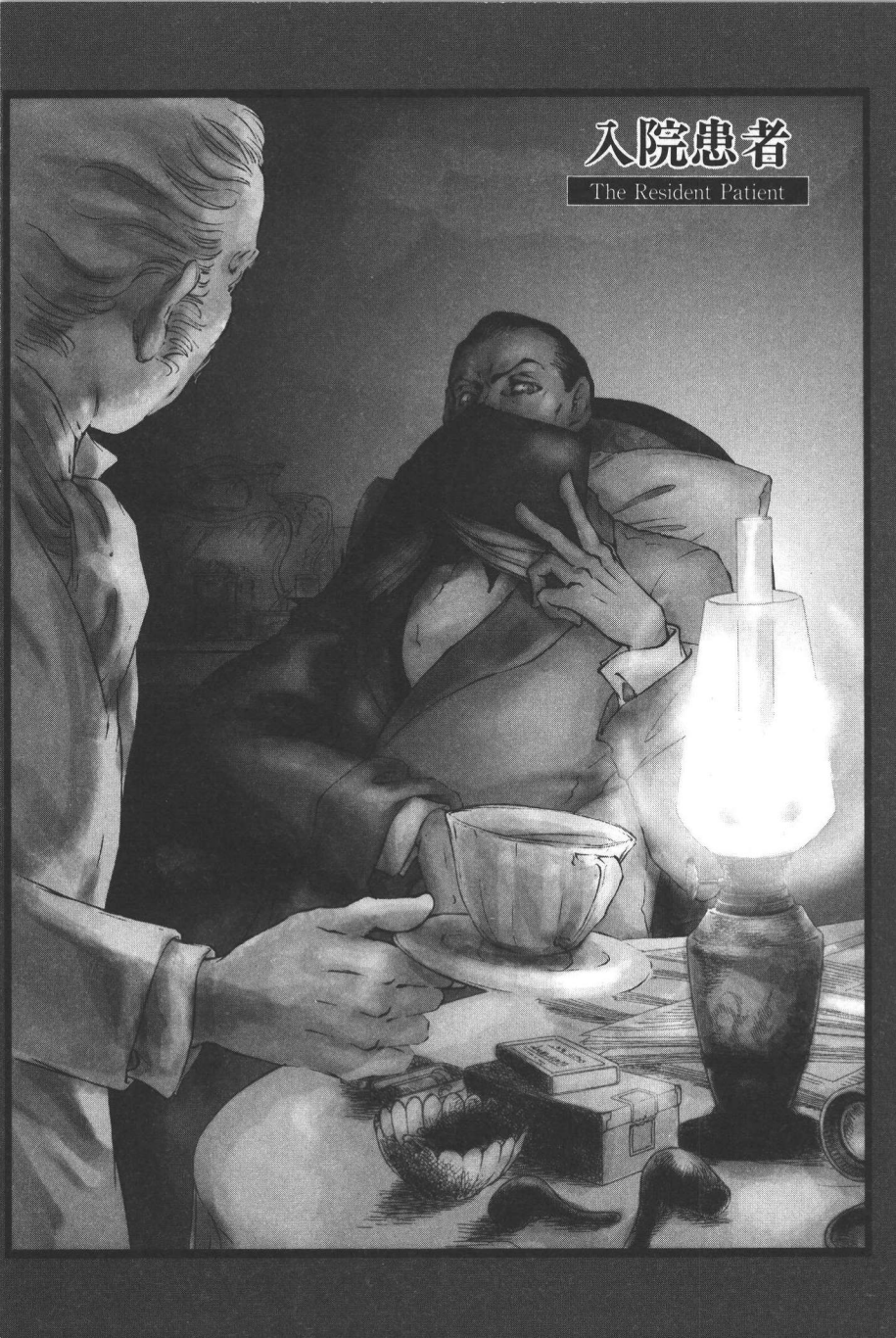

いっそ娘と共にアメリカへ帰ろうか……
そんな想いでここ数日の私は気も狂わんばかりでおりました
……あなた申しわけありません……
その時
グラント・マンローが出した答えはまさに胸のすくようなものであった
エフィ家に帰ってゆっくり相談しよう
僕は確かにあまりいい男ではないかもしれないが


君が考えているよりは
いい男でありたいと
思っているよ？
そしてまた
ワトスン君
ロンドンへ
帰るのかい？
ねえ君
今後もし僕が
自分の力を
過信するような
ことがあったなら
一言
〝ノーベリ〟と
囁いて
くれたまえ？
このホームズの
台詞もまた
胸のすく想い
——とは
心の中のみに
記しておこうと思う

黄色い顔◆END

黄色い顔 The Yellow Face

初出: ネムキ 2006年1月号掲載


入院患者
The Resident Patient


221B


邪魔かね
いや
例のブルック街の事件をまとめておこうと思ってね
ブルック街……
ああ！


しかし
あれは…
汽船ノラー・クレイナ号
行方不明 その後
――生存者絶望との
見解――
一応の結着は
ついたじゃないか
謎のままで
語られることの
なかった事件だ
知りたがっている
読者は多いと
思うんだがね
……
ホームズにとっては
いささかの不本意を
残すらしい
この事件の――
事態の顛末は
こうである
その日も
うっとうしい
雨の日であった
おや
四輪馬車が
停まっているよ


依頼人かな？
…医者の馬車だ
開業して
いくらも経って
いないようだが
繁盛しているようだね！
いい所へ
戻ってきた
ようだ
よく
いらっしゃいました
先生


さほど
お待たせしなくて
済んだのは
何よりでした
……え？
暖炉の燃え具合で
わかります
出かける前に
家主がすべて
掃除してくれました
私はパーシー・
トレヴェリアンと
申します
ブルック街で
開業しておりまして
何かお役に
立てることが？
おお！
ではあなたが
神経障害について
論文を書かれた
トレヴェリアン博士
あの論文を
読んで
らっしゃる？
もちろんですとも
あれは
売れ行きが悪い
出版元にも
言われたのですが


あなたも
医学関係を？
退役軍医です
そうですか
私も
神経科だけで
やっていきたいの
ですが
なかなか…
おお
ホームズさん
あなたの貴重な時間を
無駄遣いする気は
ありません
実はぜひとも
ご助言を頂きたい
と思いまして
もちろんです
どうぞ詳しく
お聞かせ下さい
先程も
申し上げました通り
私はブルック街で
開業しているのですが
何からお話
するべきか——


私は
ロンドン大学を出まして
在学中の論文なども
評価され
前途は
洋々たるものと
思っておりました
ですが
わかって頂けると
思いますが
開業するのには
先立つものが
必要です
希望は
夢にしか過ぎないと
気づくのに
さほど時間は
かかりませんでした
それから
一年ほど
経った頃
ギィィ…
ほう
あなたが
ドクター・
トレヴェリアン？


論文で
りっぱな賞を
取りなすった？
突然
プレミントンという
人物が訪ねて
来ました
え
ええ
なぜ
こんな場所で
くすぶって
おられる？
なぜ開業
なさらん？
！
よくある話ですな
頭はあっても
金がない
もしも君
ブルック街で
開業させて
あげると言ったら
どうなさる
！


いやいや
これはね
投資なんですよ
どうして…
私には多少の
手持ちがあるが
それをあんたに
つぎ込もうと
いうわけだ
なに
簡単なことさね
家は私が
借ります
設備も使用人も
揃えます
あんたが提供
するのは
腕と名前だ
稼ぎの四分の三は
私がもらう
あんたは
四分の一を取る
どうです
この条件で
彼のこの投資は
大成功したと
言えるでしょう
二、三
いい患者が
ついたおかげもあり
私の病院は大繁盛
プレミントン氏は
随分と元手を
増やしたことと
思います
それと――


病院の二階部分は
プレミントン氏の専有と
なっておりまして
神経性の心臓病を
持病に持つ彼の
主治医となることも
条件のひとつでした
彼はまた
毎晩決まった時刻に
診察室へ下りてきて
帳簿を調べ
自分の取り分を
受け取ると
自分の部屋の金庫へ
しまい込む——
それ以外
滅多に
外出もしない
人物でしたので
彼はまるで
入院患者という
体でした
——以上が
私と
プレミントン氏の
関係です
確かに少々
変わった人物の
ようですが——

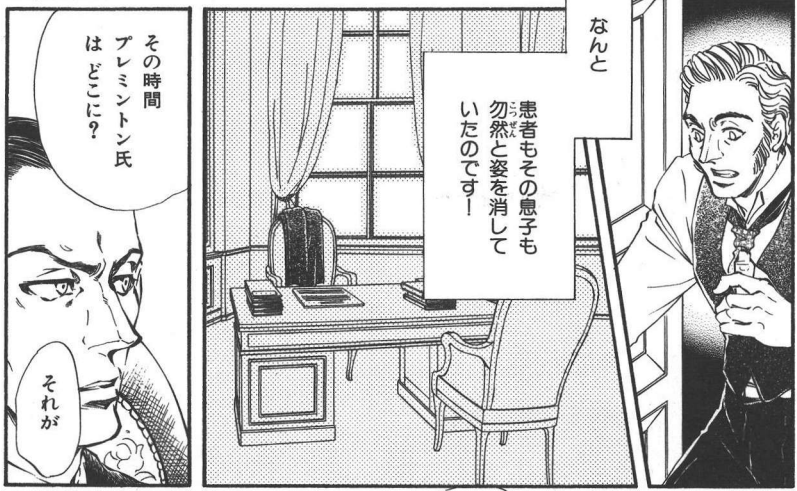

――何か事件が起きたのですかな？
はい
これは今回のことと関係があるのかよく分からないのですが
二、三週間ほど前
プレミントン氏が…大騒ぎしまして
近くに強盗があったとかでぶっそうだからと
窓や扉に新たな閂や鉄柵を取りつけさせたのです
何やらひどく怯えた様子で――
本当に強盗事件が？
いえ私は知りません
さらに数日前――
ドタ
奇矯なことが起きまして
ドタ…


わしの部屋へ入ったのは誰だ!?
…いや
気のせいではないですか?
気のせいだと!?
見てみろこれをっっ
コレがわしの足跡かっっ
…これは


ずい分
大きな――
！
ひとつ
思い当たった事が
ありました
その日の午後
訪ねて来た
一組の患者が――
大丈夫？
あ
ああ…
ロシアの貴族
だという老人と
その息子
老人は数年来
強直症の発作に
悩まされており
ぜひとも
専門医である私に
診察を願いたいという
手紙を受け取り
しん
私は心待ちに
しておりました
ご存知の通り
強直症は
症例が極端に
少ないものですから


老人の診察中
息子はずっと
隣の待合室に
おりました
そしてまた――
――では
発作は
多い時には
――？
！
？


…いかん
発作を起こした
老人をそのままに
私は薬品室へ
急ぎました
こういう場合
硝酸アルミの吸入で
よい結果を上げて
いましたので
効力を確認する
絶好の機会だと
思ったのです
すると――
調合に少し
手間取って
戻ったのは五分後
くらいでしょうか


なんと
患者もその息子も
忽然と姿を消して
いたのです！
その時間
プレミントン氏
は どこに？
それが

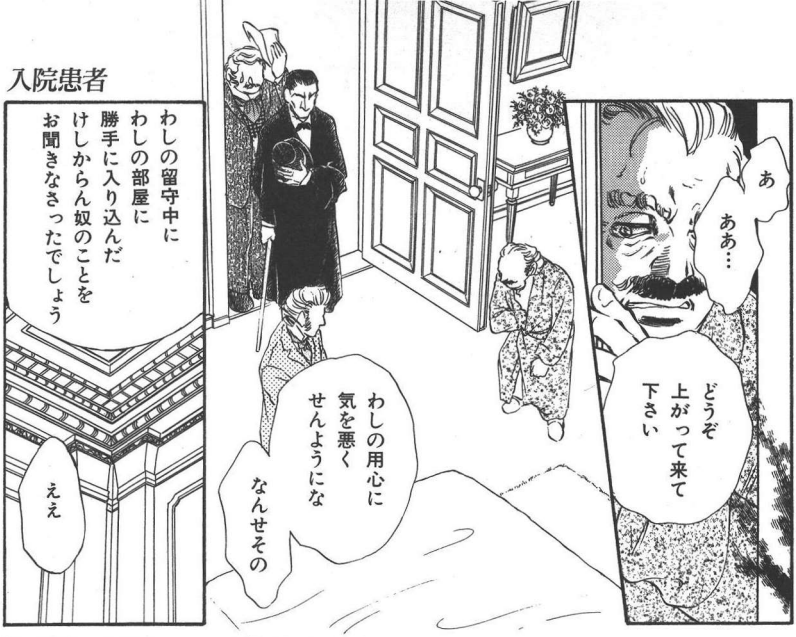

ちょうど
日課の散歩に出て
いなかったのです
その親子――
と名乗った男たちが
二階の部屋に
入りこんだと？
他に心当たりが
ないのですよ
確かに
息子の方は
ずい分大きな男
でしたし
奇妙なこととは
思いますが
とにかく
プレミントン氏が
すっかり取り乱して
しまいましてね


こちらへ伺ったのも
実は彼の提案
なのです
警察に届けは
氏は警察を
まったく信用して
おらんのですよ
大した事件では
ないとお考えかも
しれませんが
何せ彼は——
いや
大変おもしろい
お話でした
興味をそそられ
ましたよ
おお！
では——
よろしければ
今すぐにでも
私の馬車で——
御一緒
しましょう
221
カツ
カツ




帽子とコートを――
いや結構
ここが待合室？
ええ
診察室はあちらの扉の奥で――
この階段の上が――


止まれ！
こっちには
ピストルがあるんだ！
近寄ったら
射つからな——
プレミントンさん!!
あ…
ああ
先生か…
そっちは？
ホームズさんですよっ
あなたがお呼びに
なった——


あ
ああ…
どうぞ
上がって来て
下さい
わしの用心に
気を悪く
せんようにな
なんせその
ええ
わしの留守中に
わしの部屋に
勝手に入り込んだ
けしからん奴のことを
お聞きなさったでしょう


わしは大して
金持ちという
わけではない
投資だって
先生にしたのが
初めてで
まだ もうけなど
たかが知れとる
そのささやかな貯えを
狙うヤツがいたら
どんな気分がする
ものか——


この私ほど
あなたの助言を
必要とする男は
おりませんよ
……
助言があると
するならば
真実をお話しに
なることです
し
真実
ですと!?
わしは
ありのままを
申し上げ
ましたぞ!
…あっ
ホームズさん!


おやすみなさい
トレヴェリアン先生
ホームズさん！
助言を
わしは
どうやって
この……
金を守ったら
……
本当のことを
お話しなさいと
だけ
申し上げて
おきましょう
無駄足に
つき合わせて
すまなかったね
ワトスン君
底を探れば
おもしろそうな事件では
あるのだが
依頼人が
あれでは
仕方ない
嘘をついてると
いうのかい？
ああ


まず――
あの〝入院患者〟が
恐れているのは
自分の命の危険だ
金ではない
実にわけなく
真似の出来る
病だ
僕も
やったことがある
仮病だよ
患者を騙った
二人組かい？
ああ
やっぱり
強直症って
のは――
！
そんなに金が大事なら
銀行に預けるなり
もっと頑丈な金庫に
変えるなり
方法は
いくらでもある
間違いない
あの男は
命を狙われて
いるんだよ
それと
プレミントンは
偽名だ
！

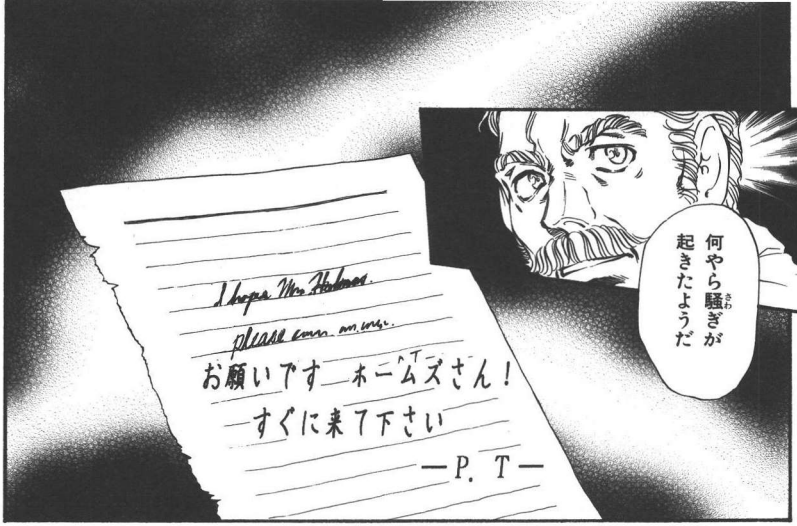

彼の持ち物には
何もかも
ネーム部分を
削り取ったような
跡がある
本当の名前を
知られたく
ないのだ
いずれにせよ
近いうちに
ブルック街には
また行くことに
なるよ
そうならなければ
不思議なくらいだ


その夜
ホームズは
何やら熱心に
昔の切り抜きを
調べていた
ようだった
…夢中になると
すぐにこれ
だからな……
コンコン
プレミントンさん？
お茶を
お持ちしましたよ
プレミントンさん？

プレミントンさー
……
……

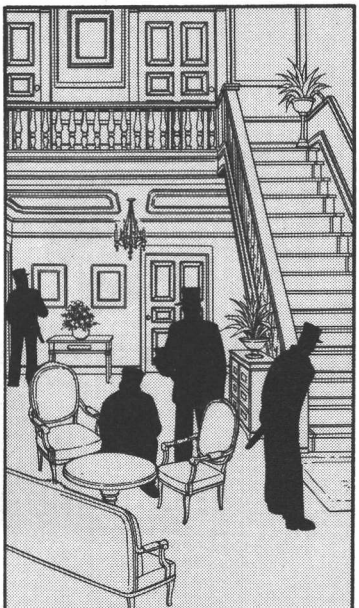

221b


……
とん
とん
……
君は寝たのかね？
ブルック街から伝令が来た
いや
これからと思っていたのだが
え？
やあ

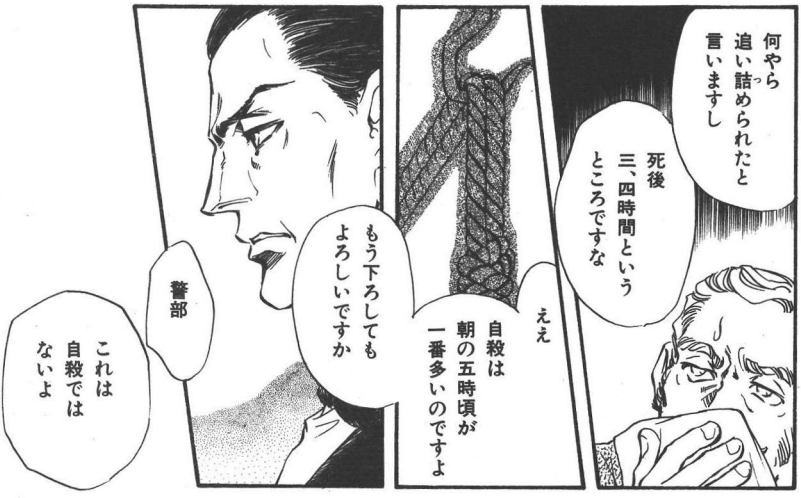

何やら騒ぎが起きたようだ
I hope Mr. Holmes
please come at once.
お願いです ホームズさん！
すぐに来て下さい
—P. T—



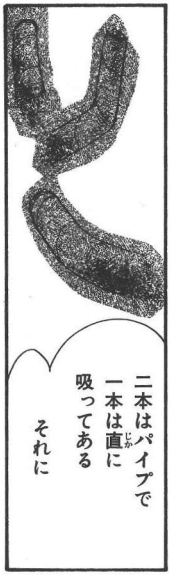

ああ
ホームズさん
お早う
ラナ警部




自殺ですな
あなたがわざわざお出ましになると聞いたので
そのままにしておきましたよ


何やら追い詰められたと言いますし
死後三、四時間というところですな
ええ自殺は朝の五時頃が一番多いのですよ
もう下ろしてもよろしいですか
警部
これは自殺ではないよ


ええっ!?
見たまえ
暖炉に葉巻の吸い殻が三種類もある


二本はパイプで一本は直に吸ってある
それに


階段を調べればわかることだが明らかにこれには三人の男が関っているよ
しかし
玄関には内側から閂が掛かっていたんですが…


ドクター
昨日いた給仕はどうしました?
朝から姿が見えんのですが…
犯人に買収されたのでしょうな
まだ遠くには行っておりますまい
うぬっ
それと


ドクター
あなたが会った偽患者親子
この中にいるのではありませんか？
十年ほど前の写真ですが――
！
この男たち――!!
これは…
プレミントン!?
サットンと書かれているようですが――
！
サットン!?
ワージントン銀行ギャング団か!!
まさに


裏切り者サットンに
三人の男――
ビトル・ヘイワード・
ファットと
言うのですが
出所した彼らが
復讐を
成し遂げたの
ですよ
警部
早く手配
なさるといい
大手柄ですぞ
おいっ
本庁に
伝令だっっ
…いったい
どういうことです
私には
何が何だか…
ワージントン銀行の
大事件は
覚えておられますな？


ええ
確か守衛が撃たれて…
二人が殺され七〇〇〇£が奪われました
凶悪な犯人どもでしたが五人組のひとりサットンという男が裏切って密告したせいで四人はつかまり
守衛を射殺したカートライトは絞首刑に
残りの三人は十五年の刑を言い渡された
一八七五年のことです
そしてサットンは七〇〇〇£の金を持っていずれかへ逐電したのですが——
街が恋しくなったのかそれとも人間の多い所の方が安全と判断したのか
ロンドンへ舞い戻って来て〝プレミントン〟と名前を変え
自らの隠れ家を拵えたのですよ
先生の病院の二階という——


〝入院患者〟となってしまえば外へ出ずとも怪しまれず
また 何もせずともトレヴェリアン先生が金を稼いでくれる
頭の良い男です
おそらくもう少し稼いだら新大陸へでも逃げるつもりでしたろう
ですが
予定外の事が起きた
刑期より早く三人が出獄したのです
THE LOND
数週間前の新聞に小さく載っていてそれを見たプレミントンは慌てた
家の守りを固めたが——


結局
隠れ家は
つきとめられ
一度は襲撃から
逃れたものの


とうとう昨夜
悪党どもは
復讐に成功したと
いうことです


扉の鍵穴に
ひどい引っかき傷が
ありました


給仕を買収して
門をあけさせ
三人は
足音を忍ばせて
プレミントンの居室へ
押し入った



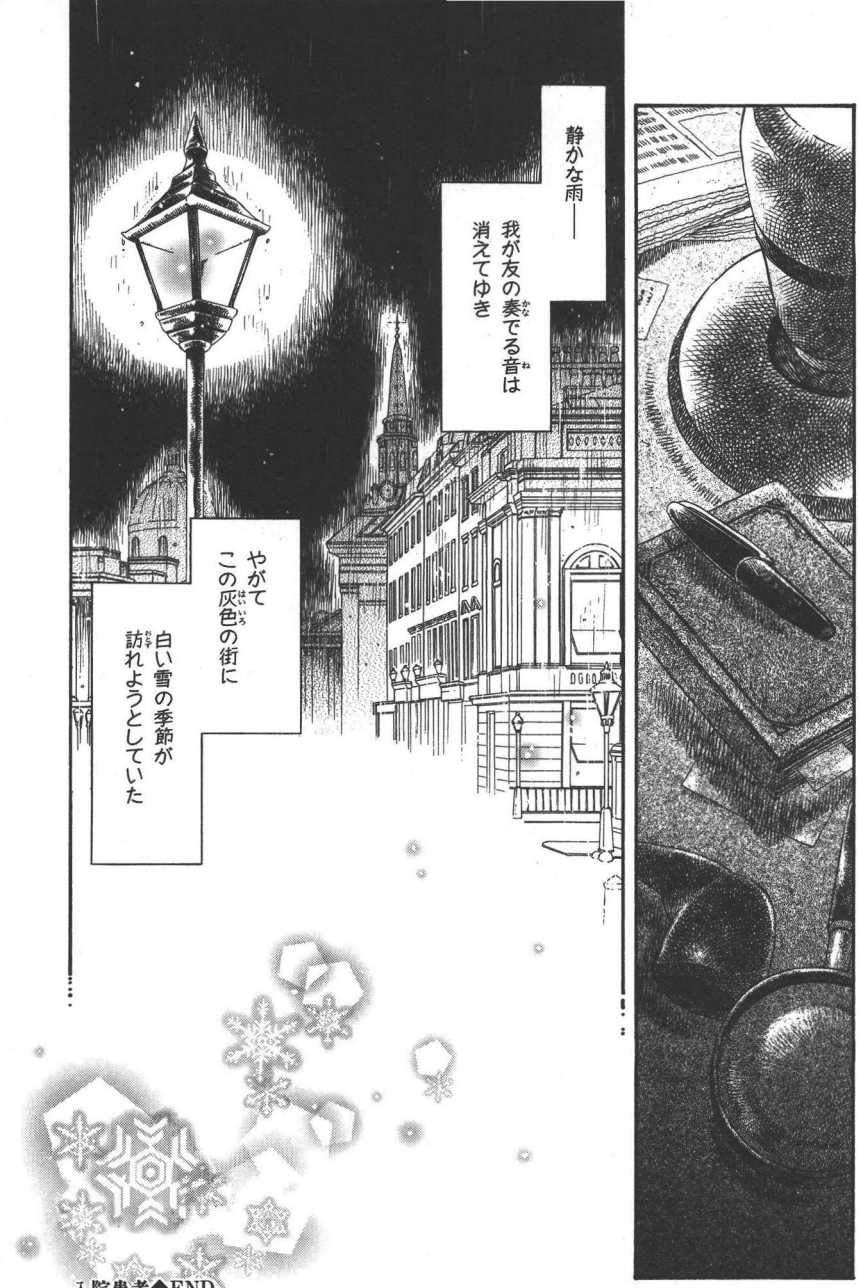

――昨夜――


そして
眠っていた
プレミントンを
縛り上げ
ひとりがいらついて
家具に葉巻を
こすりつけた跡も
残っている
しばらく
話し込んで
いたようです
おそらくは
私刑のための
糾弾裁判
そして
この縄――
本人が用意
していたものです
異常なほど
火事を恐れまして
脱出用に
それで犯人どもは
手間が省けたと
いうわけだ


——そうして——
ロンドン警視庁（スコットランド・ヤード）の
必死の追跡も甲斐（かい）なく
三人の悪党どもは
逃げおおせ
やがて
秋の長雨の季節も
終わろうとする頃
ポルトガル行きの
汽船（きせん）
ノラー・クレイナ号に
乗ったという
情報を最後に
足取り（あしどり）は途絶（とだ）えた


ノラー・クレイナ号の悲報が届いたのだ
神の裁きは下されたわけだ
神の裁き？
そんなものが本当に存在するのならば
僕の職業など必要ないがね
付け加えるならば
トレヴェリアン医師は今でも一流の神経病理専門医として更なる名声を上げている
給仕は裁判中であるが主犯どもの証言が得られないために紛糾しているようだ
結果に不満かね？


……
不満があるとするならば
いかにチンケな悪党であろうとも
助けを求めてやってきた人間を見捨てる結果になったことには
一抹の呵責は覚えるがね
瑣末な事柄に過ぎんよ

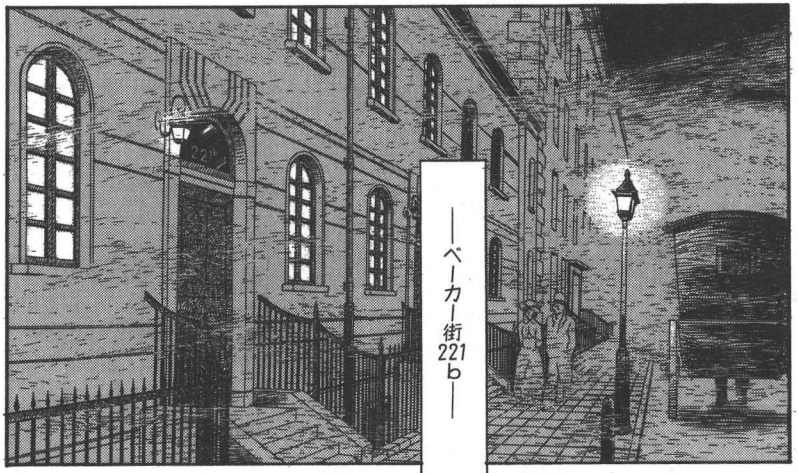


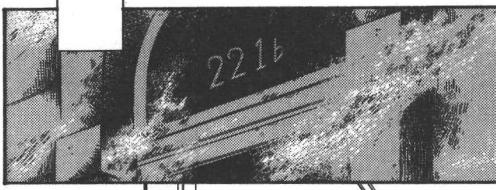
入院患者◆END

入院患者 The Resident Patient

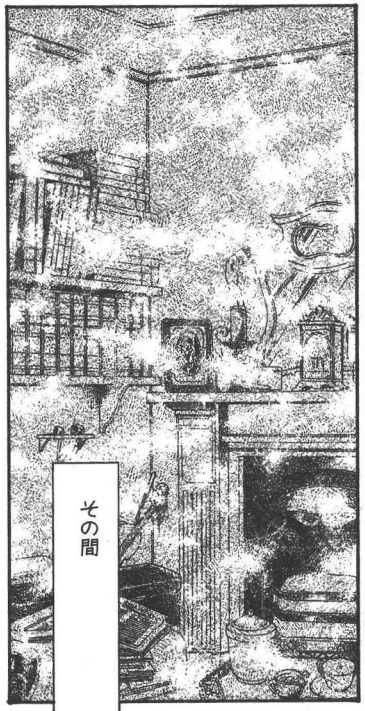
初出: ネムキ 2006年7月号掲載


瀕死の探偵
The Dying Detective





私と
我が友人
シャーロック・ホームズが
この居心地の良い
部屋に越して来て
もう随分経つ




家主の
ハドソン夫人は
いささかの苦労を
して来た事と
思われる
……
二階の住人は
一風変わっていて
信じられぬほど
不整頓で
生活時間も
不規則
真夜中に夢中で
バイオリン演奏を
してみたり
悪臭を放つ
化学実験を
行ったり
ボニッ!!!


ひどい時には
部屋の中で
拳銃の練習を
する始末
その上
昼といわず
夜中といわず
押しかけて来る
切羽詰まった
依頼人
果ては
怪し気な
殺気立った
招かれざる
客人まで——


——にも関わらず
ハドソン夫人は
心底彼を
敬愛していた
そんなわけで


その朝
ハドソン夫人が
青い顔をして
私を待ちかまえて
いるのを見た時
ああ
ワトスン先生
お待ちして
おりました！
どうしました
ハドソンさん？
ホームズ先生が
大変なので
ございますよ！
私はすぐに
ベーカー街へ
急いだ
当時私は
遠方で難しい患者を
抱えていた為
しばらくベーカー街を
離れていたので
一体何が
あったんです？
確か——
何か事件を
抱えていたはず
ですよね


私にもさっぱり
わからないので
ございますよ
水曜の午後に
床に着いたっきり
頭も上がらない
御様子なのです
この三日間
食事も飲み物も
咽喉を通りません
何てことだ
どうして医者を
呼ばなかったのです


御本人が
どうしても
ならんと
おっしゃって
でも
今朝になって
もう長くはないのでは
と思われるほど
衰弱なされ
「もう我慢
できません
御医者様を
迎えに参ります」
と申し上げたら
…それじゃ
ワトスン君を…
あんな御病状ですのに
ワトスン先生の
お戻りになる予定を
覚えてらっしゃった
んでございますよ
一刻も猶予は
ならぬと
思いまして


こうして御迎えにあがりましたの
221b
ホームズ!?


十一月の薄い陽射しの中
寝台の中から目ばかり光らせているホームズの姿――
あまりのことに
そばへ寄るな！
一体これは……
…来てはいけない……
ワトスン君……


苦しげな声
一層
痩せこけた頬
熱で
乾き切った唇
そして細い手は
絶え間なく
痙攣していた
…君の為を
思えばだ…
…僕は
スマトラの苦力病だ
……
かかったら
必ず…死ぬ…し
物凄い
…伝染力が…
ある……
…僕に触っては
…いけない…よ
ワトスン君
おいおい！
僕は
医者だよ!?
そんなことを
恐れるとでも
思っているのかい！


近寄るな！
…そこにそのまま
立っている…んだ
それが……
できないなら
…出て行ってくれ


それでは
診察ができない
じゃないか!!


…どうしても…
と…言うなら
信頼できる……
医者を…よこして
く…れたまえ
……僕では
信用ならんと
言うんだね？


君は…
苦力病について
……何か
知っているか…ね
タパスリ熱は？
どちらも
聞いたことも
ないよ


…東洋には
…君などの知らぬ
多くの奇病が……
あるの…だよ
ホームズの
風変わりな性格は
よく知っている
つもりだったが
少なくとも病室では
私が彼の主人に
なるべきである
そう医者の倫理は
告げていた
…わかった


では
信頼できる医者を
連れて来ることに
しよう
幸いにも今
熱帯病の最高権威
エインストリー博士が
ロンドンに――


ホームズ!?
あっという間の出来事だった


何と彼は
死力を振り絞って
扉に鍵をかけて
しまったのだ!!
ハア!
…ねぇ君
…まさか……
力ずくで鍵を…
取り上げたりは
しないだろうね?
ゼッ
今は……まだ
ダメだよ……
…ホームズ!?


…まだ四時だ
……陽射しが
痛い……
…六時に…
六時になったら
出してあげる
ホームズ――
近寄るんじゃ
ないっっ
病人は得てして
子供のように我儘に
なるものだが
これはひど過ぎた――
…ねぇ
ワトスン君

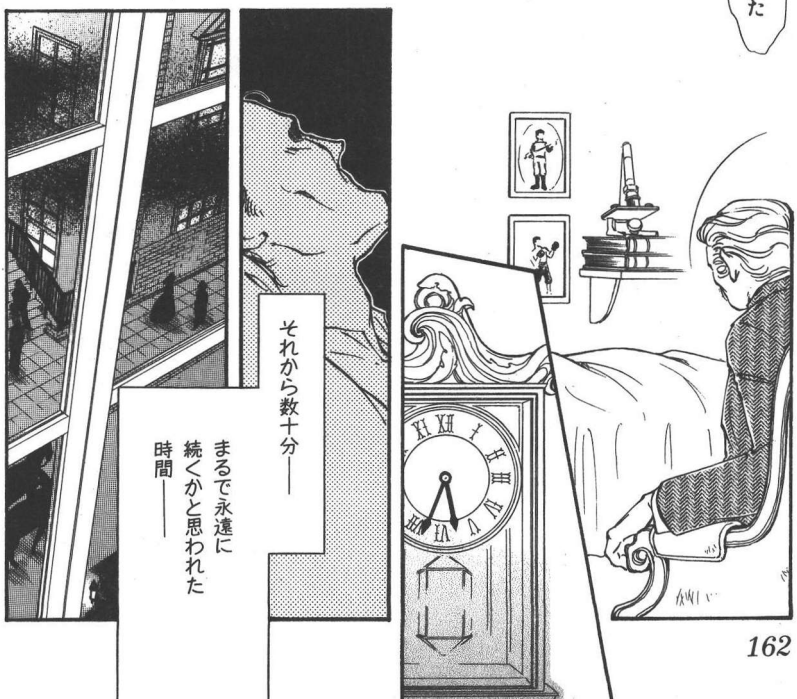

ポケットに
小銭があるかい？
あ
ああ？
…銀貨は？
たくさんあるよ
…半クラウンは……
何枚ある？
？
五枚？
……ああ…
少な過ぎる…
…少な過ぎるよ…
ワトスン！
何て運が悪い…んだ
だがいい
それを……
時計用のポケットへ
……
残りは全部
左のズボンの
ポケットだ……
さあ！
あ
ああ
…いいぞ……


…それでずっと
君のバランスが
良くなった
あの理論立った
精神の持ち主が——
私は暗然たる気持ちで
彼の混乱を見ている事しか
できなかった——
——それはもう
精神錯乱のうわ言
であった


ふと——
見慣れない
小箱に気づいた
何に使う
ものだろう？
細かな細工の
施された
象牙の小箱


置くんだ！
ワトスン
すぐに
それを置け！
……え
あ
ああ


…僕は……
…自分のものを
いじられたく…ない
ワトスン
…よくわかって……
いるはずじゃ……
ないか？
…君のその…
そそっかしさは
……どうにか
ならないのか
医者の……
くせ…に
患者を
精神病院に
追い込むつもり
か……
すまなかった


それから数十分——
まるで永遠に
続くかと思われた
時間——

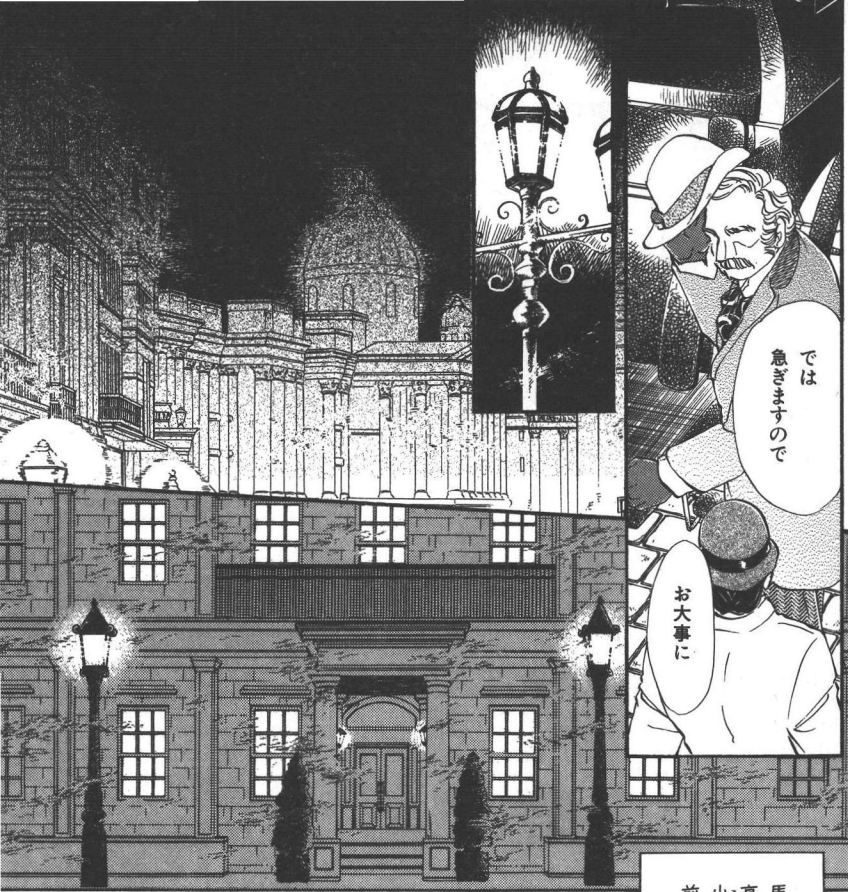

ああ…
もういいだろう
きっと今頃
大西洋の底も
牡蠣だらけになっているよ
では医者を
そうだ
…ロウア・バーク街の
バークホテルにいる
カルヴァートン・スミス氏を
呼んで来てくれたまえ
聞いたことのない
医者だが…
だろうね
彼は
医者ではなく
農園主だ
は!?


彼は……
スマトラの農園主だが
自分の農園で…
発生した苦力病の
研究で非常な成果を
あげたんだ…
僕の病が…
治せるのは
このロンドンでも
彼しかいない…
…君が彼を
うまく説き伏せることが
できるか…どうかに
僕の命は
かかっているのだよ…
わかった
無理にでも
連れて来るよ！
……いや
だめだ…
そんな…
失礼なことを
しては
…ぼくと彼は
…少々
気まずい状態
なんだ…
どうか上手く
宥めてくれ…
たまえ
わかった
まかせてくれ
実際のところ——


医者を連れて来たいという気持ちは少々薄らいではいた
というのもホームズの錯乱があまりに酷いので
ワトスン…！
彼を残して行って平気なのかと
ああ
わかった！
頼むから早く帰って来てくれたまえ
スミス氏より一足先に帰って来てくれ
…忘れないでくれたまえよ
一緒に来ないで欲しいんだ


すぐに戻って来るから安心してくれ！
大丈夫ですよ
ハドソン夫人
今から医――専門家を呼びに行きますからね！
おお
神様！


どうぞ
ホームズ先生を
お護り下さい――
ホームズさんは
どんな具合
ですか？
モートン警部
重体です
どうも…
そうですか
噂を聞きまして……



馬車は
高級住宅街の中の
小綺麗なホテルの
前で止まった

どうやら
件のスミス氏は
経済的には
余裕のある人物で
あるらしかった

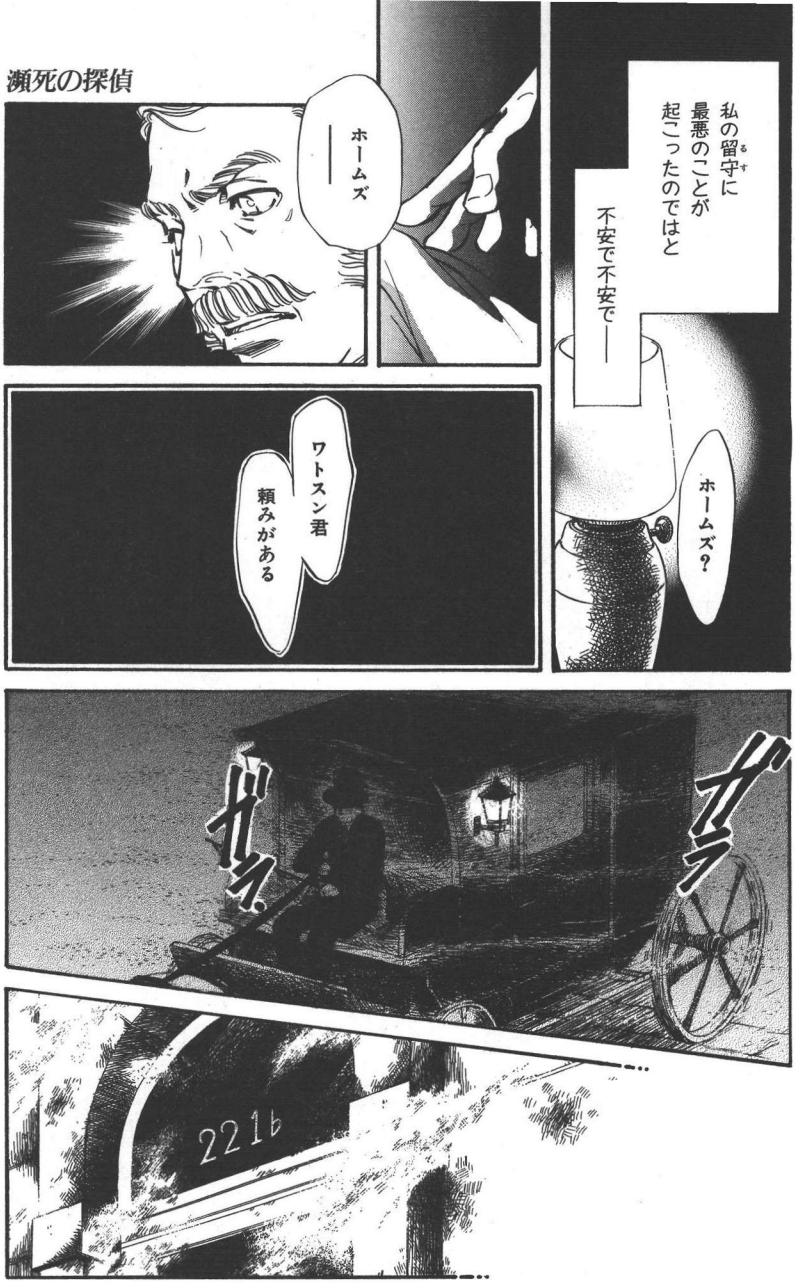
ドクター・
ワトスン？

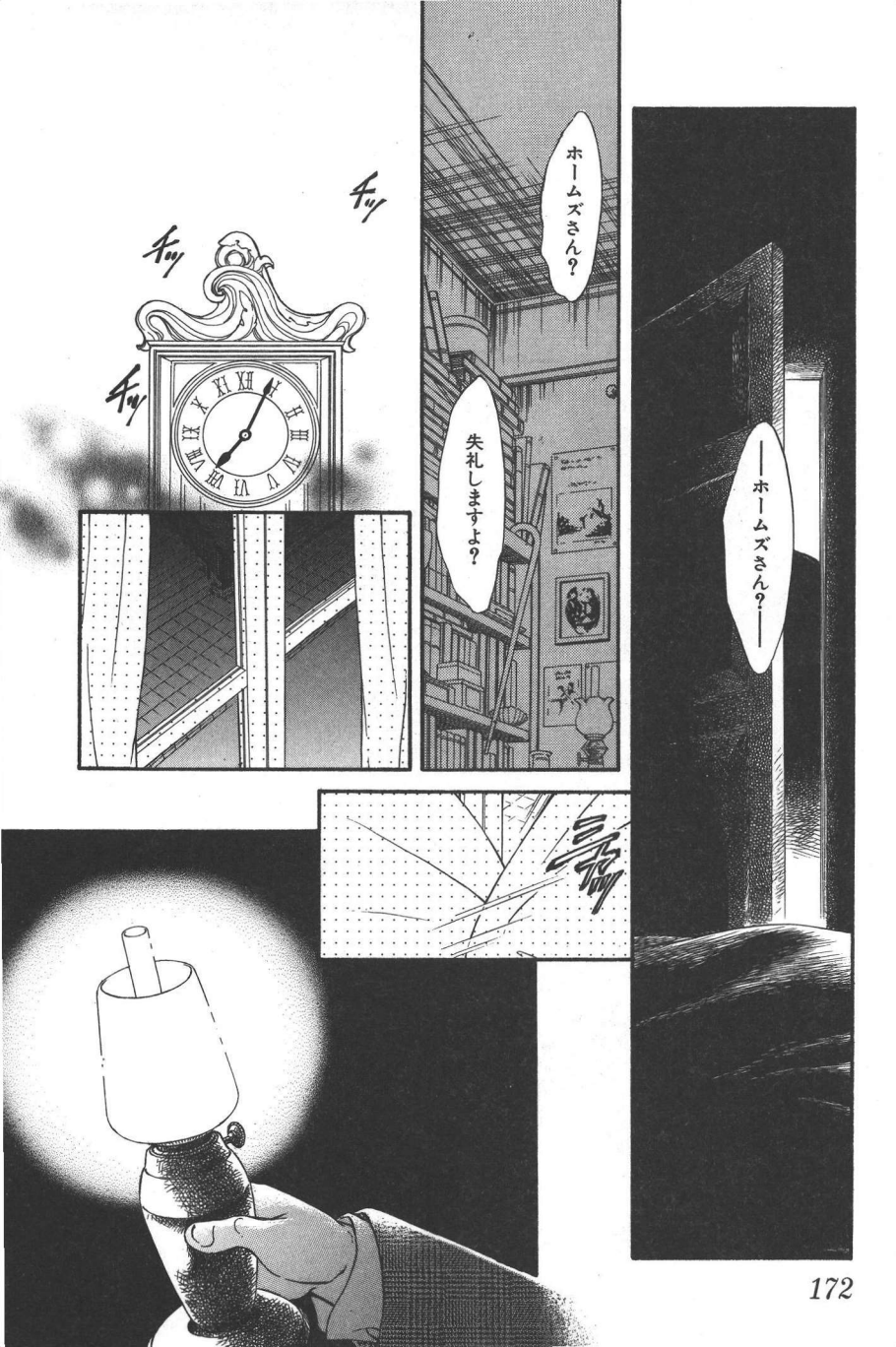

明日をもしれぬ病気です
そのためにお伺いしました
……
それは――
お気の毒な
あなたの専門知識をお借りしたいのです
どうかしたのですか？
ホームズ？
ホームズの名前を出した途端
彼の表情に驚くべき変化が現れた
申しわけないが明日の午前中にして頂けないか？
今大事な研究の最中で――
お邪魔してしまったことは謝りますですが一刻の猶予もならぬことでして
シャーロック・ホームズが――


ホームズは
自分の病気を
治せるのは
あなたしかいない
と――
どうしてかね？
あなたの知識が
必要だと
彼の病気は
スマトラの苦力病
――あなたの
御専門であろうと
……
なるほど！
発症して
どのくらいです？
三日ほど前です


錯乱状態を
示している？
…ときどき
それはまた
随分症状が
進んでおりますな
――よろしい
ホームズさんのことは
前にちょっと
存じあげているが
あの人の才能と
人格には
敬意を持っております
わしは素人医学者だが
あの人も素人犯罪学者だ
頼みに応じないのは
不人情というものだ


よろしい
今すぐ
御一緒
しましょう
おお！
そうですか
もうひとつ
用事が――
あ
も
申し訳ない
！
では一人で
参りましょう
なに
ホームズさんの住所は
控えてあります
ホームズの寝室に
戻った時
私の心は
沈み切っていた


私の留守に
最悪のことが
起こったのではと
不安で不安で——
ホームズ？
ホームズ
——
ワトスン君
頼みがある
ガラ
ガラ
221b


チッ
チッ
チッ
ホームズさん？
失礼しますよ？
――ホームズさん？――


ホームズ？


ホームズ!!
わしの
呼んでおるのが
聞こえないのか!?
……あ
ああ
スミスさん?
来て下さったん
ですね…?
お前さんが
あの病だと
聞いたのでな
来る気など
なかったさ
だが
…そう…です
あなたなら…
治す方法を
…御存知の…
はず……
さて
どうかな
もう三日目だ
そうじゃないか
ヴィクタの奴は
四日目にはお陀仏
だったが


ヴィクタ？
おいおい
忘れたのか？
わしの甥の
ヴィクタ・サヴェイジだ
ロンドンの街で
東洋の伝染病に
かかって死んだ
哀れな男だよ
お前さんもそれが
わしの研究しておる
病気だと
嗅ぎつけたまでは
良かったがな
…やはり…
だが証拠は
あるまい？


う
ううっ
水を
水を…くれ
もうお前は
おしまいだよ
…たのむ
僕を治して
くれ…
そうすれば
…すべて忘れる…
忘れる？
何を？


ヴィクタの…
死のことですよ…
何を今更
どうせお前は
死ぬんだよ——
私はそれを
見届けに
来たんだ
世の中には自分より
頭の良い人間が
いるということを
思い知るがいい
ドサッ
…ヴィクタに
…何を…
したのです…
お前と同じさ
…わからない…
頭が混乱
して……

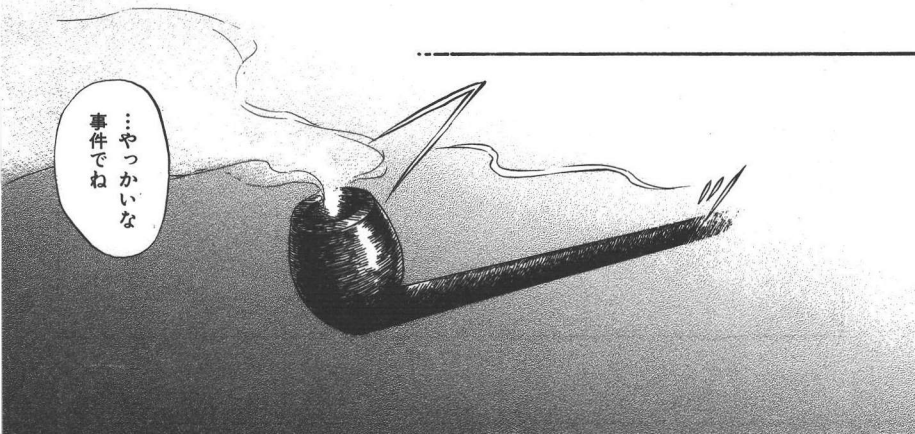

思い出してみろ
三日前に
何があったか
……
郵便で何か
届かなかったか
…郵便…？
箱のような
ものだ
く…
苦しい…
助けてくれ
……
よく聞け！
象牙の箱だ!!
…あ
ああ
そうだ…
…開けたら
いたずら…
悪戯ではないさ
お前はまだ
わかってない
ようだから
教えてやる
まだ死ぬなよ


中にはバネ仕掛けの先端に鋭い刃がついてたはずだ
…あ
ああ
そうだ血が出た……
あの刃の先にはなたっぷりと徹源菌が塗ってあったのさ
…あれはあなたの仕業だったのか…
そうとも
やっと真相がわかったか
このヘボ探偵ホームズめ
わしの仕掛けた罠にはまったのさ
お前もヴィクタ・サヴェイジもな


ああ
こいつだ
これは
貰っていくぞ
これで完全に
証拠も消える
……
ん？
何だ？
最後の望みくらい
叶えてやるぞ
水が
欲しいのか？
何だって？


燐寸と煙草を
取ってくれないか
そのようですな
カルヴァート・スミス
殺人の嫌疑で
逮捕する
やあモートン警部
やっと自供が
取れましたよ


シャーロック・
ホームズ氏
殺害未遂もつけ加えて
おくと良い
…証拠は…
証拠は君の
ポケットの中さ
それに
!!
足りぬと
言うなら
証人もいる

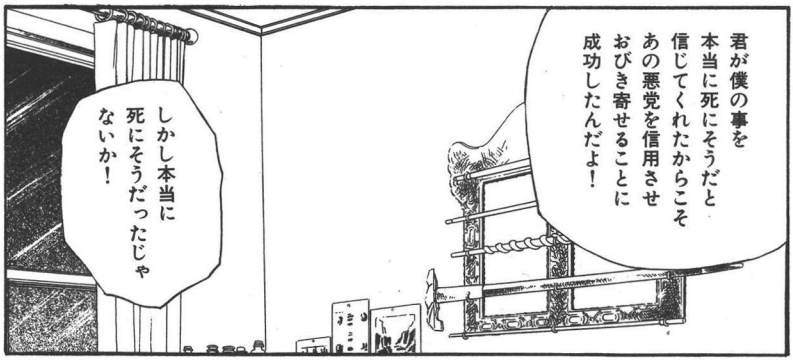

…やっかいな
事件でね


カルヴァート・スミスは
財産横領のため
甥を謀殺した
それは分かっているのに
証拠が何もない――

ところが


奴が同じ方法で
僕を殺害してしまうと
計画してくれたおかげで
対策が立てられた
僕まで
騙してね…


ねえ
ワトスン君
君の能力も
人格においても
僕はとても
尊敬しているが
しらばっくれると
いう一事においては
君はからっきしだ


君が僕の事を
本当に死にそうだと
信じてくれたからこそ
あの悪党を信用させ
おびき寄せることに
成功したんだよ！
しかし本当に
死にそうだったじゃ
ないか！


三日間
飲まず食わずで
いれば
誰でもああなるさ
目にベラドンナ剤と
唇に蜜蝋で薄皮を
つければ
さらにリアルだ
意味不明の言葉で
精神錯乱を装うのも
簡単な演出に
すぎないよ
……


伝染病でも
ないのに
近寄らせ
なかったのは？


ワトスン君
上着を取って
くれないかね


おいおい
ワトスン君!?
近寄って見て
死にかけた男で
通るわけがない
じゃないか！
僕は常に
君を医者として
高く評価して
いるんだよ？


何か栄養のある物を食べて——
そいつは断るよ
君はハドソンさんを死ぬほど心配させたのだから
彼女に礼節を尽くすべきだと思うんだが
——まずは何かおいしい料理を作ってもらおうじゃないかね？

瀕死の探偵◆END

瀕死の探偵 The Dying Detective

初出：ネムキ 2006年11月号掲載

再びの…

お久しぶり もしくは はじめまして。
「シャーロック・ホームズの冒険」第２集をお届けいたします。
こうして巻数を重ねることが出来るほど描き続けることができて望外の幸せ。描くに従ってホームズ先生の変な人ぶりがエスカレートしてる気もいたしますが、そんな御大が好き、なんていう人種なので……いや実際大好きでも遠くにありてこそな人っていますよね（笑）。

簡単に作品解説。
★まだらの紐
思いっきり久しぶりにネムキでホームズ復活の第一作でした。久しぶり過ぎてかなりの手探り状態で描いております。「有名な作品を」という編集サイドからのリクエストでこの選択。有名なんですが、それなりに問題も多いというか……普通蛇はミルクを飲まないだろうとかツッコミどころ満載の原作です。雰囲気とかすごい素敵なんですけどね。
結局悩んだ挙句ミルクはごまかしました（笑）ネズミの死体てんこ盛りもちょっと嫌だし。
★黄色い顔
これは自分の趣味で選びました。珍しい御大失敗譚で色々萌えポイント満載。
当時の大陸（欧州）での人種的偏見のすさまじさは想像するしかないのですが、かなりの酷さだったようですね。この依頼人の男っぷりがもう少し巧く表現出来れば良かったのですが。でもきっと“ノーベリ”と囁いたところで、方眉を吊り上げて効き目は無い方に三千点。
★入院患者
趣味で選びました……いやほら、有名な作品って言われても限界ありますし。
子供の頃見た映像（大人になって色々調べたんですが結局何だったのか微妙なまま）の影響もあって、ホームズ御大というとヴァイオリン、と思うんですが、原作には意外とそういうシーンは無かったり。ボクシングも然りなんですが。
しかし巧かろうが下手だろうが、部屋の中でヴァイオリンひかれたらうるさくてかなわないよねえ……まあ個人的には煙草が一番逃げ出したくなると思うんですが。（遠くにありて）
★瀕死の探偵
これこそ趣味の典型。不思議な構成の物語なんですが色々と大好きで。
弱っている御大も萌えですが、やはり完全に騙されて走り回るワトスンさんの人の良さが素適で。これ子供の頃に読んだ時に“びっくり箱”がいまいちどういうモノか解りきらなくて一時期やたら全ての箱が怖かった記憶があります。その後横溝作品「びっくり箱殺人事件」とか読んで、なんとなく理解はしたんですが。確かに予想の外飛び出してくる物体への恐怖とかロマンとか……でもやっぱり効率悪い犯罪だよなあ。

そんなわけで趣味満開の四作品。単行本にまとめると変化球だらけになっちゃったかなと、ちょっと後悔もしておりますが。
幸いこの後もネムキ本誌のほうではホームズ先生の探偵譚は続いておりますので、そのうち機会がありましたらまたお会いできると幸せ。
おかげさまで夢想の中霧のロンドンで遊ぶ日々はまだ続きます。

2007 初夏　　JET

眠れぬ夜の奇妙な話コミックス
シャーロック・ホームズの冒険②
まだらの紐

2007年10月1日　新版第1刷発行

著者……コナン・ドイル／JET
©JET
発行者……間島英之
発行所……朝日新聞社
〒104-8011　東京都中央区築地5-3-2
TEL　03-3545-0131(代表)
編集・図書編集センター
販売・出版販売部
印刷……株式会社光邦

Printed in Japan
乱丁、落丁がありましたらおとりかえいたします。
定価はカバーに表示してあります。
この本の初版は2007年5月に朝日ソノラマ社から発行されました。

ISBN978-4-02-213002-0


只今絶賛発売中!!
名探偵登場! シリーズ
「シャーロック・ホームズの冒険①／バスカヴィル家の犬」
ホームズの華麗なる推理が冴える!!
『ネムキ』の大人気シリーズが
いよいよコミックスで登場!!
原作◇コナン・ドイル
作画◇JET
語り継がれる忌まわしきバスカヴィル家の呪い。
サー・チャールズが謎の死を遂げ、
依頼を受けた名探偵シャーロック・ホームズが
事件解決に乗り出す!!
B6判／定価600円／192頁
【同時収録】「青い紅玉」
ネムキコミックス

眠れぬ夜の奇妙な話コミックス

原作◆江戸川乱歩　作画◆JET

名探偵登場！

黒蜥蜴

――くろとかげ――

シリーズ



明智小五郎 VS 女盗賊・黒蜥蜴!!

奇才・江戸川乱歩が生んだ名探偵・明智小五郎と妖艶な女盗賊・黒蜥蜴の、可憐な美少女と宝石をめぐる華麗なる対決が始まる!!

★同時収録「人でなしの恋」（原作・江戸川乱歩）

只今絶賛発売中！

【A5判★定価：840円（税込み）】

【書店にご注文すると確実にお手元に届きます】

The Speckled Band

The Yellow Face

The Resident Patient

The Dying Detective

9784022130020

ISBN978-4-02-213002-0

C0979 ¥571E

定価：本体571円 ＋税

朝日新聞社

1920979005716

【同時収録「まだらの紐」「黄色い顔」「入院患者」「瀕死の探偵」】



THE ADVENTURES OF SHERLOCK HOLMES II